

感染症発生動向調査事業報告書

—令和5（2023）年版—

山梨県感染症情報センター

目 次

| | | |
|-----|---------------------------------------|----|
| I | 事業概要 | |
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 対象感染症 | 2 |
| 3 | 地域区分と定点数 | 4 |
| II | 患者発生状況 | |
| 1 | 全数把握対象感染症 | 5 |
| 2 | 定点把握対象感染症 | 5 |
| 2-1 | インフルエンザ／COVID-19定点から報告された感染症 | |
| | | 7 |
| | ○ インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く) | 7 |
| | ○ COVID-19 | 9 |
| 2-2 | 小児科定点から報告された感染症 | 10 |
| | ○ R S ウイルス感染症 | 11 |
| | ○ 咽頭結膜熱 | 12 |
| | ○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 13 |
| | ○ 感染性胃腸炎 | 14 |
| | ○ 水痘 | 15 |
| | ○ 手足口病 | 16 |
| | ○ 伝染性紅斑 | 17 |
| | ○ 突発性発しん | 18 |
| | ○ ヘルパンギーナ | 19 |
| | ○ 流行性耳下腺炎 | 20 |
| 2-3 | 眼科定点から報告された感染症 | 21 |
| | ○ 急性出血性結膜炎 | 21 |
| | ○ 流行性角結膜炎 | 22 |
| 2-4 | 性感染症定点から報告された感染症 | 23 |
| | ○ 性器クラミジア感染症 | 23 |
| | ○ 性器ヘルペスウイルス感染症 | 24 |
| | ○ 尖圭コンジローマ | 25 |
| | ○ 淋菌感染症 | 26 |
| 2-5 | 基幹定点から報告された感染症 | 27 |
| | ○ 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る) | 28 |

| | |
|--|----|
| ○ クラミジア肺炎（オウム病を除く） | 29 |
| ○ 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く） | 30 |
| ○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 31 |
| ○ マイコプラズマ肺炎 | 32 |
| ○ 無菌性髄膜炎 | 33 |
| ○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 34 |
| ○ 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 35 |

III 病原微生物検出状況

| | |
|------------|----|
| 1 ウイルス検出状況 | 37 |
| 2 細菌検出状況 | 37 |

IV 参考資料

| | |
|--------------------------|----|
| 1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧 | 39 |
| 2 全数把握対象感染症の報告数 | 41 |
| 3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数 | 42 |
| 4 前年（令和4年）との定点当たり報告数の比較 | 43 |
| 5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移 | 44 |
| 6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表 | 45 |

I 事業概要

1 はじめに

感染症発生動向調査は、感染症の患者発生情報を迅速に収集・分析し、その結果を県民や各関係機関へ情報提供することで、適切な予防措置を講じ感染症の発生や拡大の防止を目的としている。

本事業は昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、システムのオンライン化や対象感染症等の充実・拡大がされ、運用がされてきた。現在の事業は、平成11年4月に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき国、県、保健所を設置する市が実施主体となり実施されている。

山梨県感染症情報センターでは、本調査事業の対象感染症について、患者報告数を週・月単位で集計し、国へ報告するとともに、集計された情報は、県ホームページ「やまなし感染症ポータルサイト」に公表している。ポータルサイトでは、患者報告数や流行状況だけでなく、衛生環境研究所の行政検査で患者検体から検出した病原微生物検出状況についても併せて掲載し、県民や関係機関等へ情報提供を行っている。

なお、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）（以下、COVID-19と記載）が5類定点把握対象感染症に位置づけられたことから、本報告書では類型変更の前後でそれぞれ分けて集計し、掲載する。また、甲府市の中核市移行（平成31年4月）に伴い、甲府市内の感染症発生情報の収集と情報提供は甲府市保健所が行っているが、県感染症情報センターとして甲府市分も併せて掲載する。

2 対象感染症

令和5年9月25日現在、全数把握対象感染症 91 疾病、定点把握対象感染症 26 疾病及び法第14条1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症を調査対象としている。

全数把握対象感染症(87 疾病)

| | 対 象 感 染 症 |
|--------------|---|
| 一類感染症(7 疾病) | (1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、 (4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱 |
| 二類感染症(7 疾病) | (8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。)、(12)中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。)、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9) |
| 三類感染症(5 疾病) | (15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス |
| 四類感染症(44 疾病) | (20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)、 (22)A型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)エムボックス*、(25)黄熱、 (26)オウム病、(27)オムスク出血熱、(28)回帰熱、(29)キャサヌル森林病、(30)Q熱、(31)狂犬病、(32)コクシジオイデス症、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTSウイルスであるものに限る。)、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Bウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱 |
| 五類感染症(24 疾病) | (64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)、(66)カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症*、(67)急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)、(68)急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群、(73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエン |

| | |
|-------------------------|---|
| | ザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症 |
| 新型インフルエンザ等感染症 (4 疾病) | (113)新型インフルエンザ、(114)再興型インフルエンザ (115)新型コロナウイルス感染症、(116)再興型新型コロナウイルス感染症 |
| 指定感染症 | なし |

定点把握対象感染症(26 疾病・疑似症:五類感染症及び法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症)

| | 対象感染症 |
|------------------------------|---|
| 小児科定点(10 疾病) | (88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(91)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(92)感染性胃腸炎、(97)水痘、(101)手足口病、(102)伝染性紅斑、(103)突発性発しん、(105)ヘルパンギーナ、(111)流行性耳下腺炎 |
| インフルエンザ/COVID-19 定点(2 疾病) | (90)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)、(96)新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)** |
| 眼科定点(2 疾病) | (93)急性出血性結膜炎、(110)流行性角結膜炎 |
| 性感染症定点(4 疾病) | (98)性器クラミジア感染症、(99)性器ヘルペスウイルス感染症、(100)尖圭コンジローマ、(112)淋菌感染症 |
| 基幹定点(8 疾病) | (92)感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)、(94)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、(95)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(104)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(106)マイコプラズマ肺炎、(107)無菌性髄膜炎、(108)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109)薬剤耐性緑膿菌感染症 |
| 疑似症定点 | (117) 発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。 |

* : 令和 5 年 5 月 26 日名称変更

** : 令和 5 年 5 月 8 日類型変更

3 地域区分と定点数

県内の定点把握対象感染症（五類感染症）を把握するため、県は、人口や医療機関の分布等を考慮し、各保健所管内に患者定点及び病原体定点を指定している。（県内の定点の一覧は「IV参考資料」の1を参照）

令和5年5月8日現在

| | 保健所 | 中北 | 峡東 | 峡南 | 富士郷 | 甲府市 | 計 |
|-----------------------|---------------------|----|----|----|-----|-----|----|
| 患者 定 点 | 小児科定点 | 8 | 4 | 2 | 5 | 5 | 24 |
| | 内科定点 | 5 | 3 | 1 | 4 | 4 | 17 |
| | インフルエンザ/COVID-19 定点 | 13 | 7 | 3 | 9 | 9 | 41 |
| | 眼科定点 | 3 | 2 | 0 | 2 | 2 | 9 |
| | 性感染症定点 | 3 | 2 | 0 | 2 | 2 | 9 |
| | 基幹定点 | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 10 |
| | 疑似症定点 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 7 |
| 病 原 体 定 点 | 小児科定点 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| | インフルエンザ定点 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| | 眼科定点 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 基幹定点 | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 10 |

【定点の説明】

患者 定 点：定点把握対象感染症（五類感染症）の発生状況を報告する医療機関

小 児 科 定 点：小児科を標榜し、小児科定点把握対象感染症の発生状況を報告する医療機関

内 科 定 点：内科を標榜し、インフルエンザ及びCOVID-19の発生状況を報告する医療機関

インフルエンザ/COVID-19 定点：インフルエンザ及びCOVID-19の発生状況を報告する小児科定点、内科定点の両者を合わせた医療機関

眼 科 定 点：眼科を標榜し、眼科定点把握対象感染症の発生状況を報告する医療機関

性感染症（STD）定点：産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標榜し、性感染症定点把握対象疾病の発生状況を報告する医療機関

基 幹 定 点：患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜し、基幹定点把握対象感染症の発生状況を報告する医療機関

疑 似 症 定 点：疑似症の発生状況を報告する医療機関

病 原 体 定 点：病原体の分離等の検査情報を収集するため、病原体検査のための検体等採取する医療機関

Ⅱ 患者発生状況

II 患者発生状況

1 全数把握対象感染症

山梨県及び全国における令和5年の全数把握対象感染症の報告数を「IV参考資料」の2に示した。

《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

結核（53例）の報告があった。

《三類感染症》

腸管出血性大腸菌感染症（69例）の報告があった。

《四類感染症》

E型肝炎（1例）、エムポックス（1例）、つつが虫病（2例）、ライム病（1例）、レジオネラ症（15例）の報告があった。

《五類感染症》

アメーバ赤痢（3例）、ウイルス性肝炎（2例）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（7例）、急性脳炎（8例）、クロイツフェルト・ヤコブ病（1例）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（3例）、後天性免疫不全症候群（2例）、侵襲性インフルエンザ菌感染症（1例）、侵襲性肺炎球菌感染症（9例）、水痘（入院例）（2例）、梅毒（32例）、播種性クリプトコックス症（1例）、破傷風（2例）の報告があった。

《新型インフルエンザ等感染症》

新型コロナウイルス感染症（37,916例）の報告があった（令和5年1月1日から5月7日まで）。

2 定点把握対象感染症

《五類感染症》

山梨県および全国における令和5年の定点把握対象感染症の報告数と定点医療機関当たりの患者報告数^{*1}（以下、「定点当たり報告数」という）をIV参考資料の3に示した。本県で報告数が1,000例を超えたのは、感染性胃腸炎（6,158例）、ヘルパンギーナ（1,019例）、インフルエンザ（15,596例）、COVID-19（13,354例）であった。定点当たり報告数が全国に比べて高かったのは、感染性胃腸炎（山梨県256.58、全国243.89）、突発性発しん（山梨県14.00、全国13.00）、COVID-19（山梨県325.71、全国278.14）、性器ヘルペスウイルス感染症（山梨県12.67、全国9.62）であった。

前年（令和4年）との定点当たり報告数の比較をIV参考資料の4に示した。定点当たり報告数が前年より増加したのは、RSウイルス感染症（1.06倍）、咽頭結膜熱（17.36倍）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（9.24倍）、感染性胃腸炎（1.64倍）、突発性発しん（1.33倍）、ヘルパンギーナ（3.15

倍)、流行性耳下腺炎 (2.24 倍)、インフルエンザ (83.60 倍)、急性出血性結膜炎 (0 から 0.11 に増加)、流行性角結膜炎 (3.18 倍)、性器ヘルペスウイルス感染症 (1.43 倍)、感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。) (3.00 倍)、細菌性髄膜炎 (2.67 倍)、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (1.18 倍) であった。

《疑似症》

法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症である、「発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの」の報告はなかった。

※ 1 : 定点医療機関当たりの患者報告数とは

山梨県が指定する医療機関 (指定届出機関) から 1 週間ごとに報告される患者数を、定点医療機関数で割った値である。県内の指定届出機関の一覧はIV参考資料の 1 に掲載している。

注意報レベル、警報レベルについて

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾患について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、関係者に向け、データに何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにある。

- 警報レベル 大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指す。
- 注意報レベル 流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指す。

警報レベルは、保健所単位で集計した定点当たり報告数 (1 週間) が開始基準値以上で開始し、終息基準値未満で終息となる。注意報レベルは、定点当たり報告数 (1 週間) が基準値以上の場合である。

警報・注意報基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、以下のとおり定められており、定期的に評価・見直しが行われている。

| 疾病 | 警報レベル | | 注意報レベル |
|---------------|-------|-------|--------|
| | 開始基準値 | 終息基準値 | 基準値 |
| インフルエンザ | 30 | 10 | 10 |
| 咽頭結膜熱 | 3 | 1 | - |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 8 | 4 | - |
| 感染性胃腸炎 | 20 | 12 | - |
| 水痘 | 2 | 1 | 1 |
| 手足口病 | 5 | 2 | - |
| 伝染性紅斑 | 2 | 1 | - |
| ヘルパンギーナ | 6 | 2 | - |
| 流行性耳下腺炎 | 6 | 2 | 3 |
| 急性出血性結膜炎 | 1 | 0.1 | - |
| 流行性角結膜炎 | 8 | 4 | - |

令和5年4月1日現在

基準値はすべて定点当たり報告数である。注意報の「-」は対象としないことを意味する。

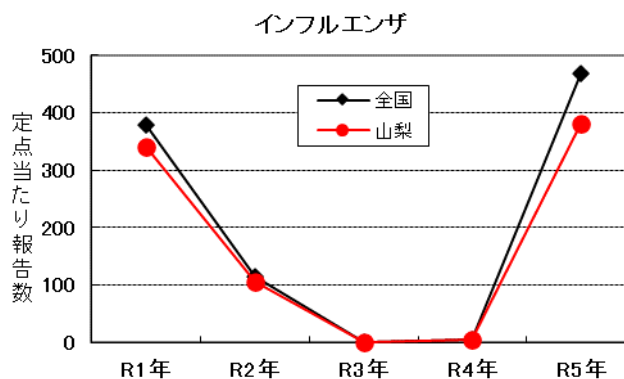
2-1 インフルエンザ/COVID-19定点から報告された感染症

県内 41 カ所のインフルエンザ/COVID-19定点から、届出対象感染症であるインフルエンザ及びCOVID-19について週報として報告される。

○ インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

定点から 15,596 例（定点当たり報告数 380.39）の報告があり、前年 182 例（4.55）に比べ大幅に増加した。

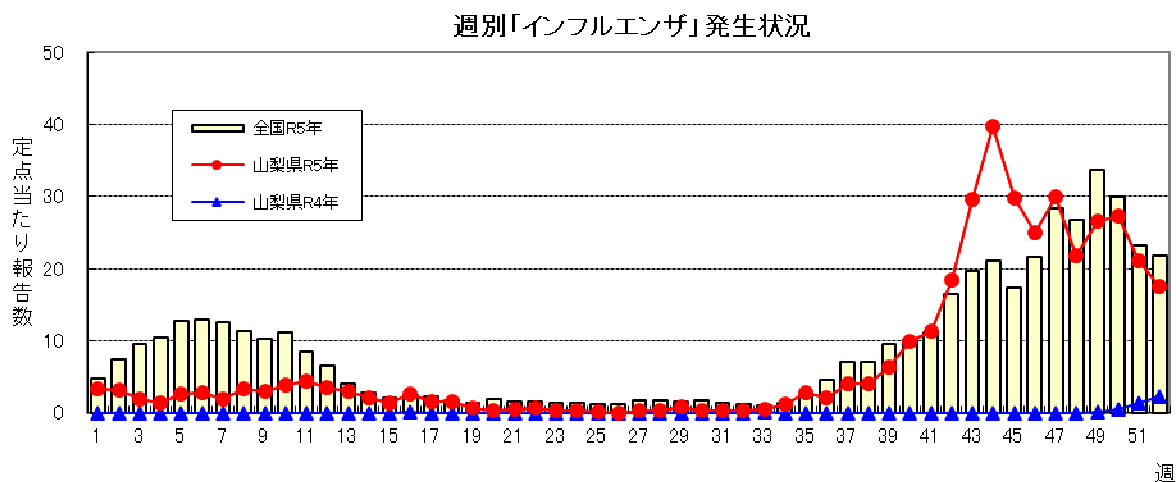
最近 5 年間は全国とほぼ同様に推移している。



《週別発生状況》

第 1 週から継続的に報告があり、第 11 週には富士・東部保健所管内で注意報レベル基準値（10.0）を超えた。その後、報告数は減少し、第 19 週には流行期の目安である 1.0 を下回った。

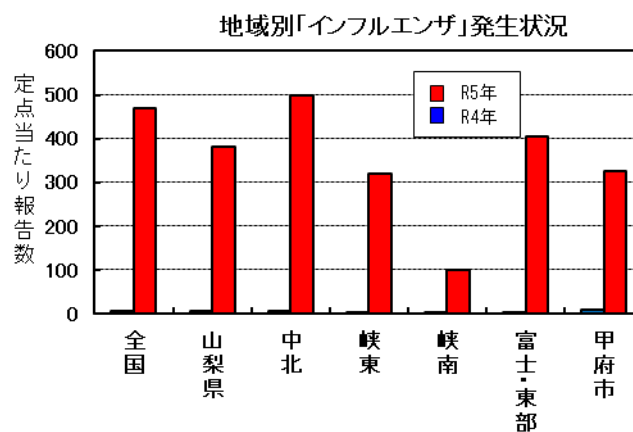
第 34 週には再び 1.0 を超え、第 40 週には中北保健所管内（12.46）、富士・東部保健所管内（10.44）、甲府市保健所管内（11.78）で注意報レベル基準値を超えた。第 43 週には中北保健所管内（37.15）、甲府市保健所管内（35.22）で警報レベル開始基準値（30.0）を超え、第 44 週（39.63）をピークに報告数は減少傾向で推移した。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（498.92）であった。

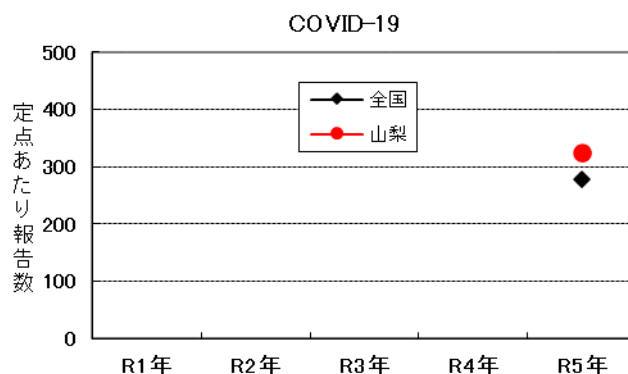
全ての保健所管内で前年より報告数が大幅に増加した。



○ COVID-19

2023年5月8日から感染症法上の取扱いが5類定点把握対象感染症に変更され2023年19週から報告対象疾病となった。定点から13,354例（定点当たり報告数325.71）の報告があり、全国より多かった。

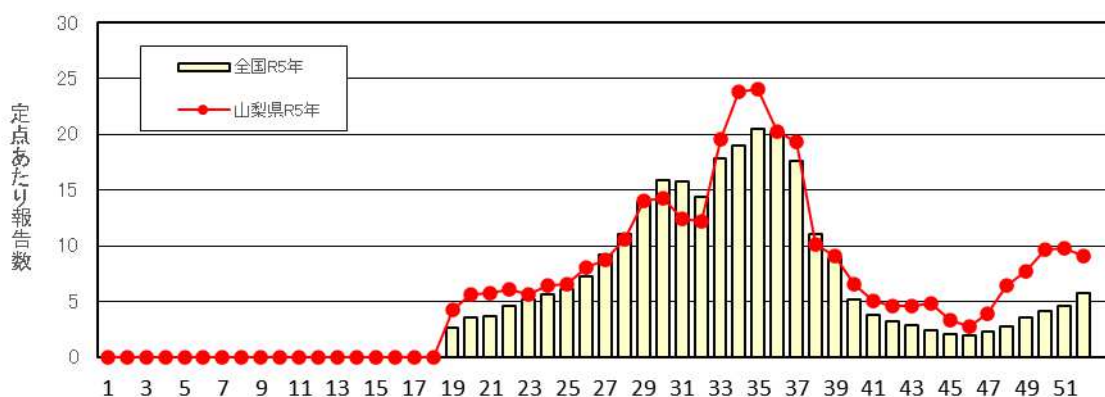
なお、定点報告が開始される以前の報告数は5ページ、「IV参考資料」に記載した。



《週別発生状況》

報告が開始された第19週以降、35週(24.02)をピークとする流行がみられた。年間を通した発生状況は全国とほぼ同様の推移であった。

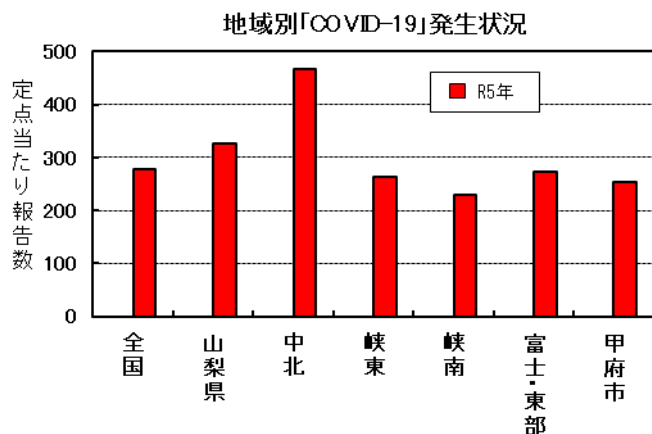
週別「COVID-19」発生状況



週

《地域別発生状況》

定点あたり報告数が最も多かったのは中北保健所管内(467.92)であった。



2-2 小児科定点から報告された感染症

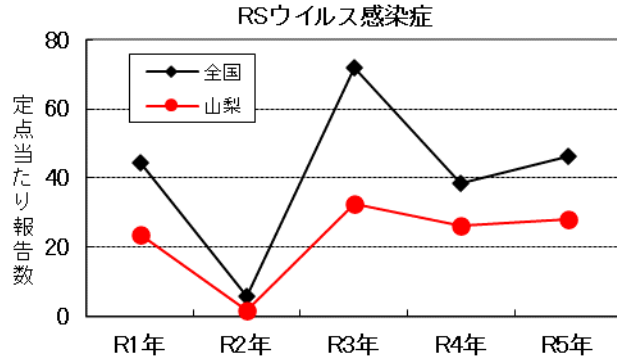
県内 24 カ所の小児科定点から、対象感染症である RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ及び流行性耳下腺炎について週報として報告される。

総報告数は 9,461 例で、前年（5,753 例）より大幅に増加した。前年と比較して報告数が増加したのは RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、突発性発しん、ヘルパンギーナ及び流行性耳下腺炎であった。

○ RSウイルス感染症

定点から 670 例（定点当たり報告数 27.92）の報告があり、前年 604 例（26.26）よりやや増加した。

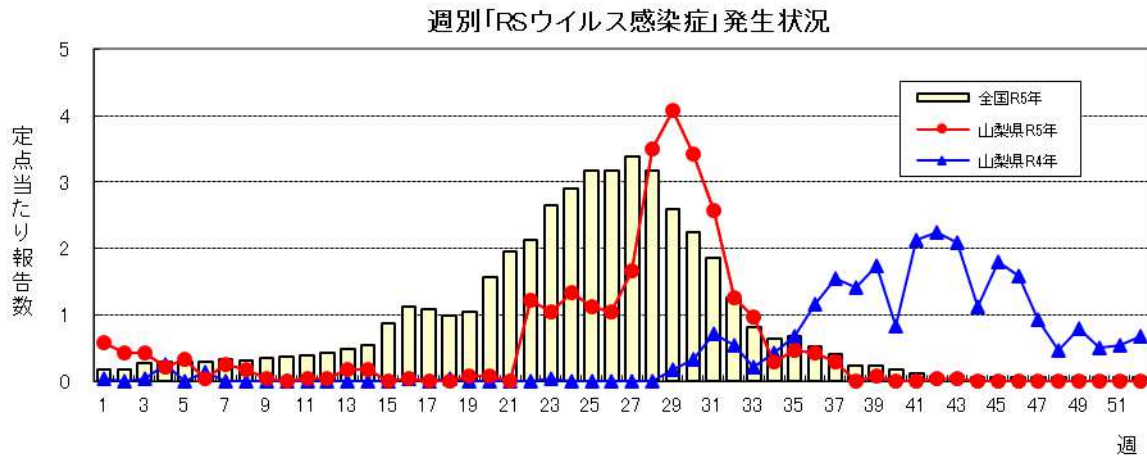
最近 5 年間は全国より少ない状況で、同様に推移している。



《週別発生状況》

第 29 週（4.08）をピークとする

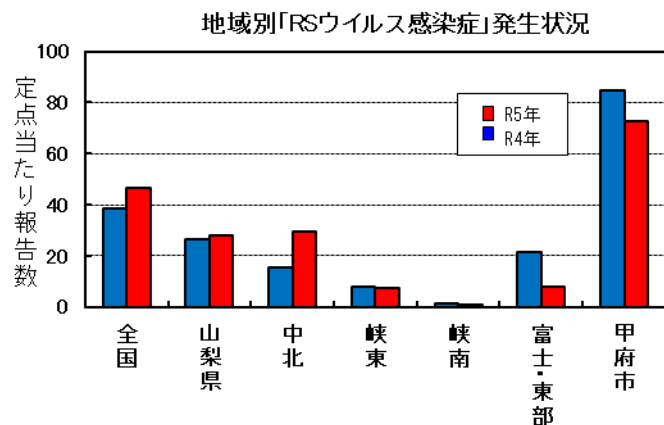
夏期の流行がみられた。年間を通した発生状況は全国より遅いピークであった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（72.60）であり、全体の約 5 割を占めた。

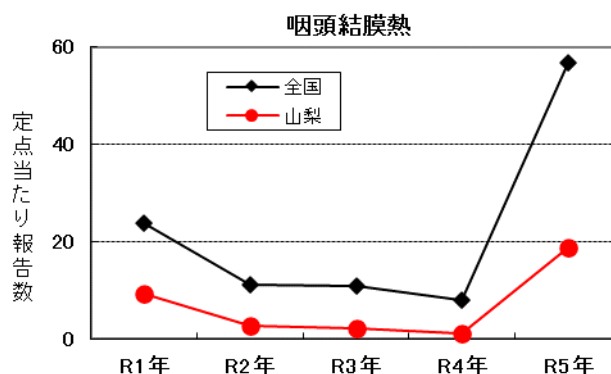
前年より報告数が増加したのは中北保健所管内のみであった。



○ 咽頭結膜熱

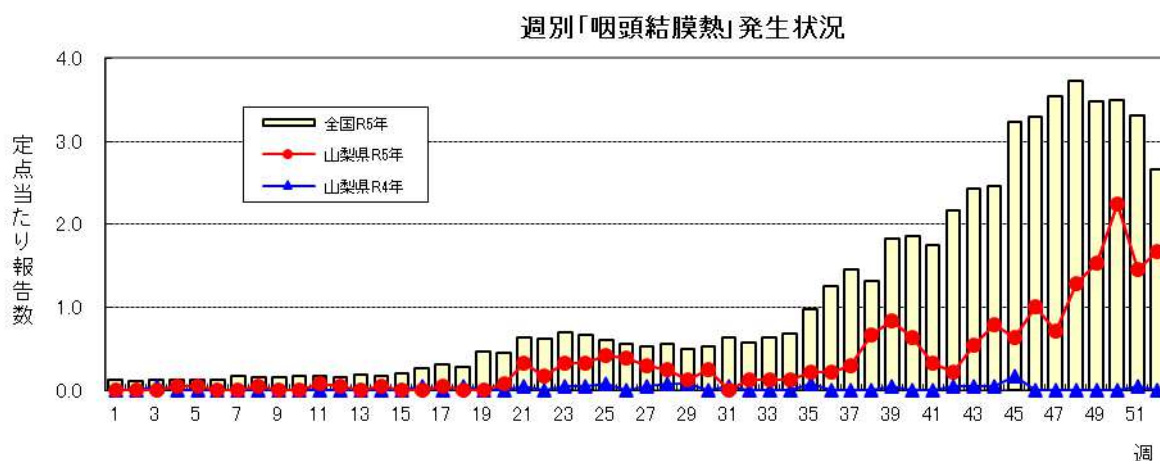
定点から 454 例(定点当たり報告数 18.92)の報告があり、前年 25 例(1.09)より大幅に増加した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で、同様に推移している。



《週別発生状況》

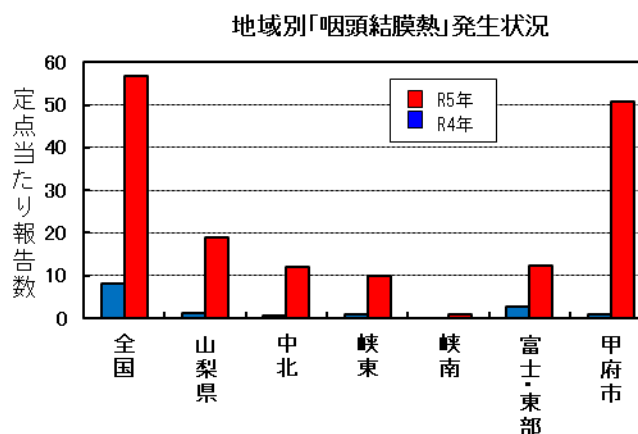
第 50 週をピークとする冬期の流行がみられ、甲府市保健所管内では第 48 週から 52 週に警報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内 (50.80)であり、全体の約 6 割を占めた。

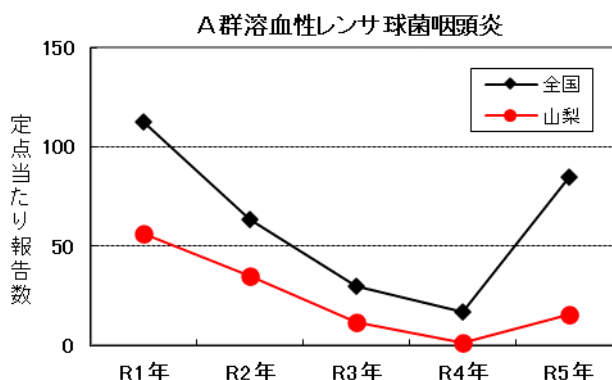
全ての保健所管内で前年より大幅に増加した。



○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

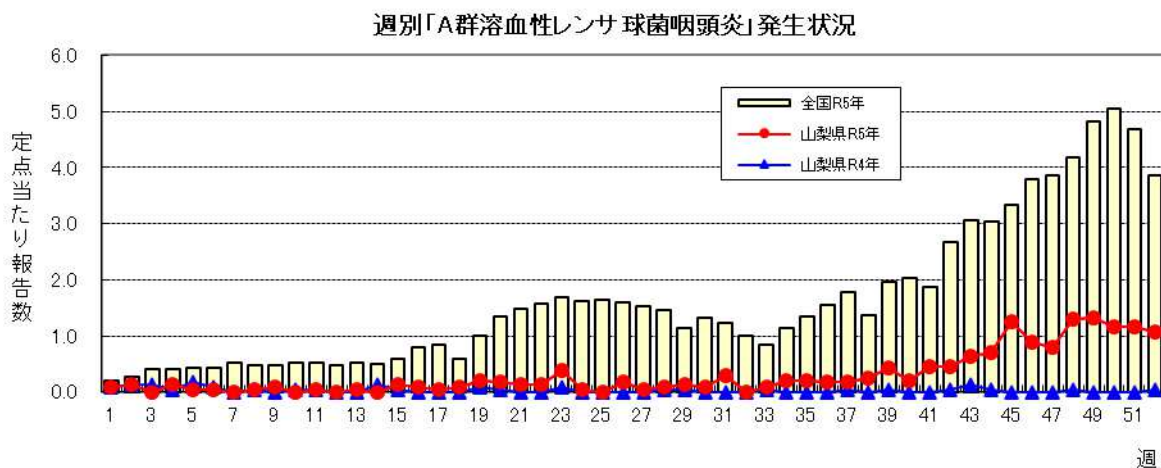
定点から 377 例（定点当たり報告数 15.71）の報告があり、前年 39 例（1.70）より増加した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で、同様に推移している。



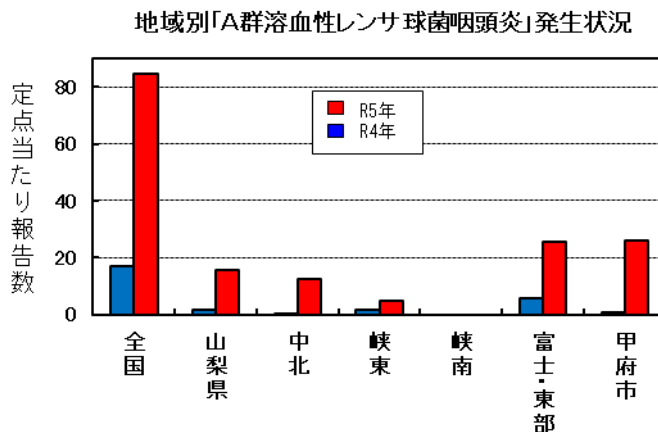
《週別発生状況》

年間を通して報告があったが、冬期に報告が多かった。



《地域別発生状況》

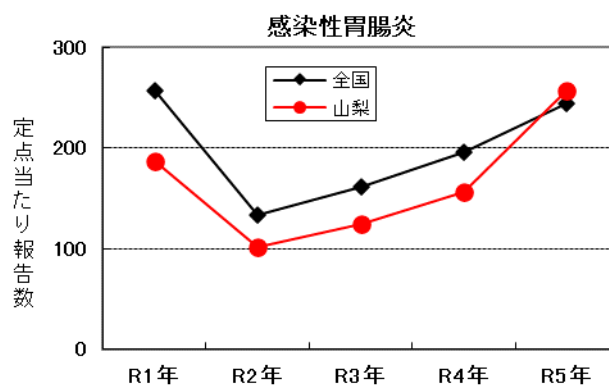
峡南保健所管内の報告はなかった。



○ 感染性胃腸炎

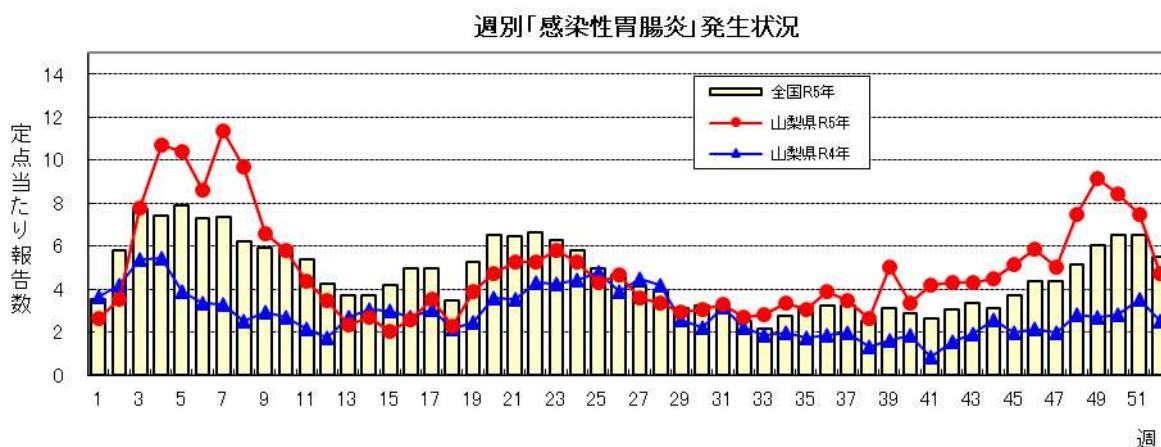
定点から 6,158 例（定点当たり報告数 256.58）の報告があり、前年 3,592 例（156.17）より増加した。

最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

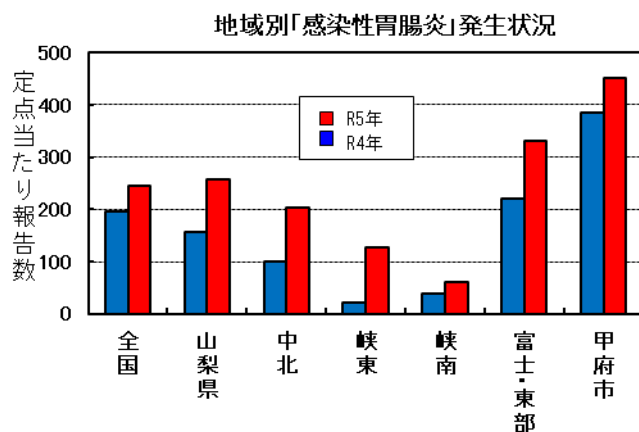
第 7 週及び第 23 週、49 週をピークとする流行がみられ全国とほぼ同様に推移した。甲府市保健所管内では第 7 週及び 8 週に警報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（451.40）であった。

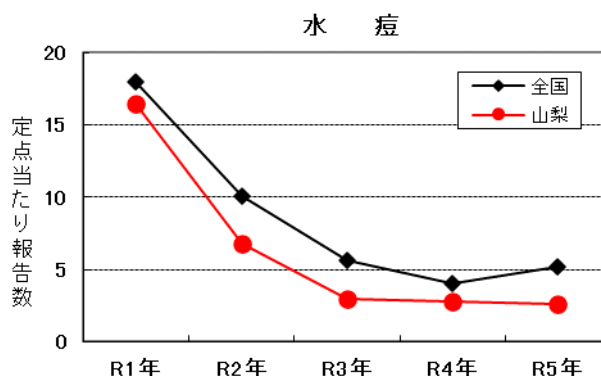
すべての保健所管内で前年より報告数が増加した。



○ 水痘

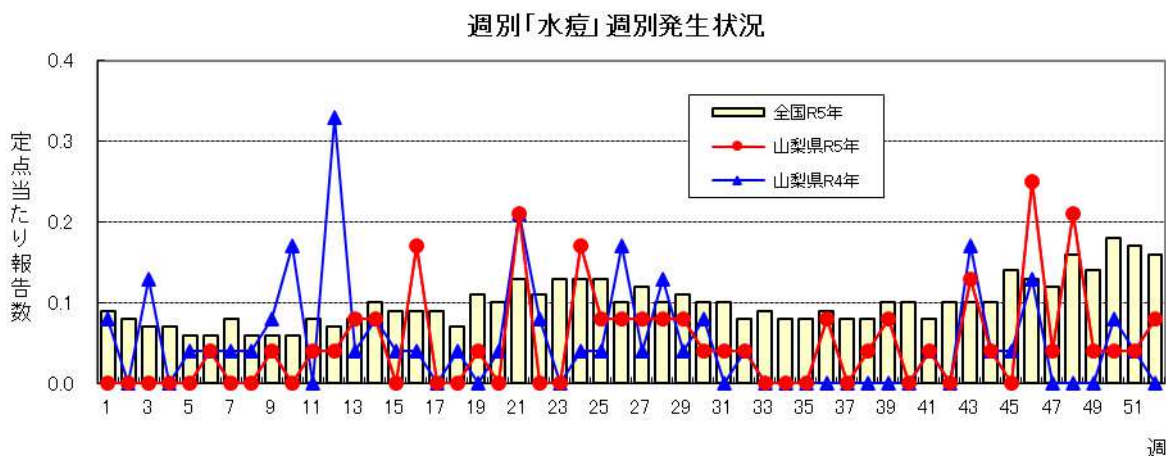
定点から 62 例（定点当たり報告数 2.58）の報告があり、前年 64 例（2.78）よりやや減少した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で、同様に推移している。



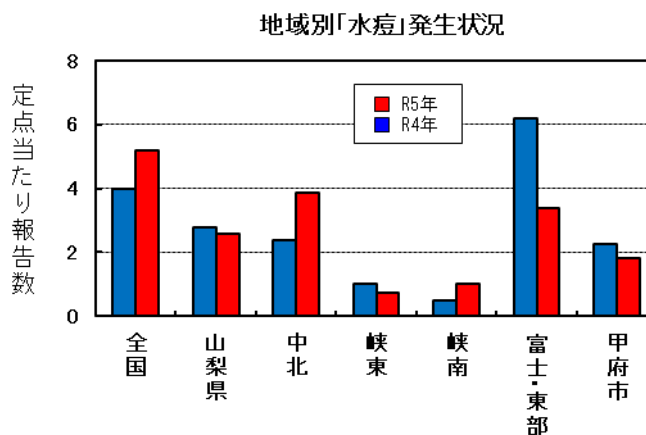
《週別発生状況》

年間をとおして報告があったが、大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

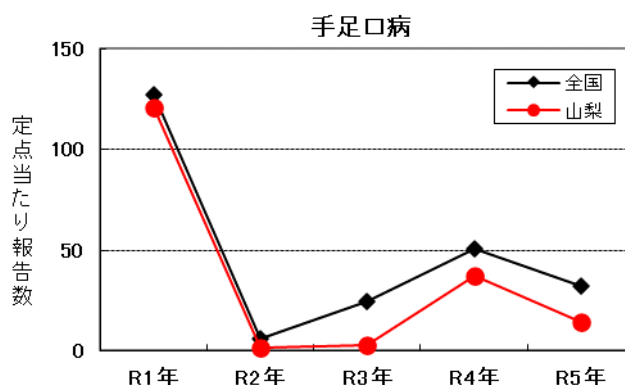
定点当たり報告数が最も多かったのは、中北保健所管内（3.88）であった。



○ 手足口病

定点から 336 例（定点当たり報告数 14.00）の報告があり、前年 850 例（36.96）より減少した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で、同様に推移している。



《週別発生状況》

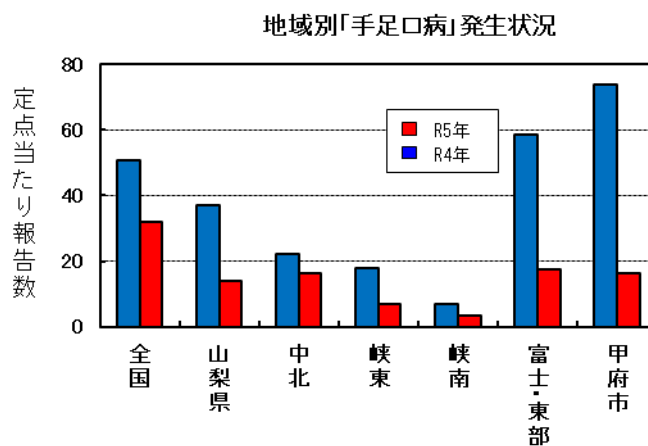
年間を通して報告があったが、大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、富士・東部保健所管内（17.60）であった。

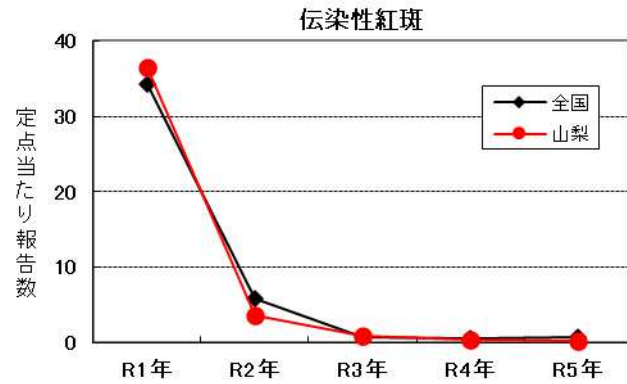
全ての保健所管内で前年より減少したが、特に富士・東部保健所、甲府市保健所管内が顕著であった。



○ 伝染性紅斑

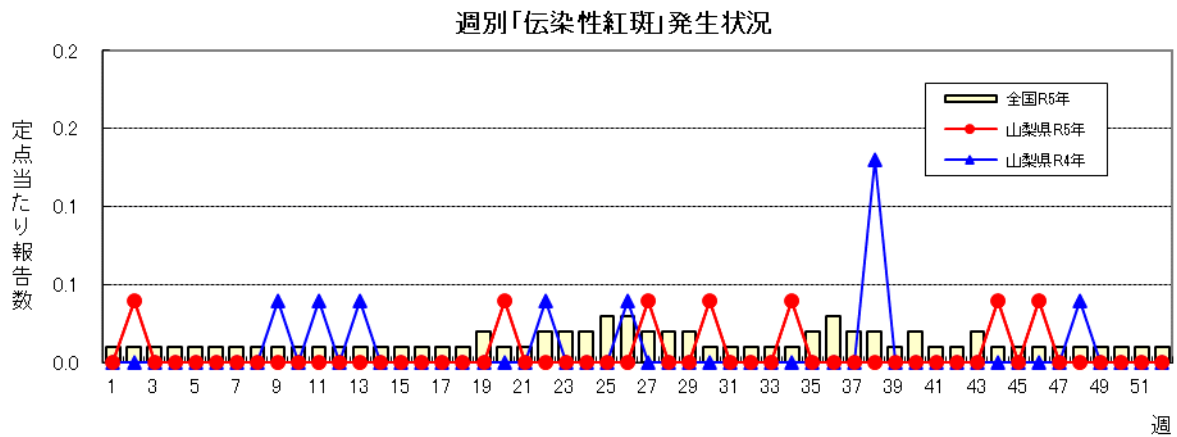
定点から7例（定点当たり報告数0.29）の報告があり、前年9例（0.39）よりやや減少した。

最近5年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

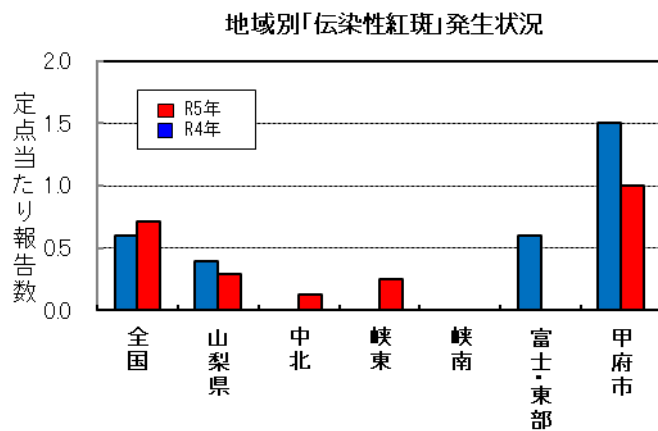
年間を通して報告があったが、大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（1.00）であり、全体の約6割を占めた。

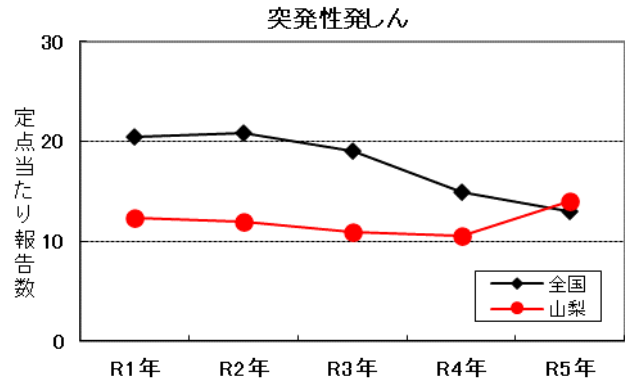
峡南保健所、富士・東部保健所管内の報告はなかった。



○ 突発性発しん

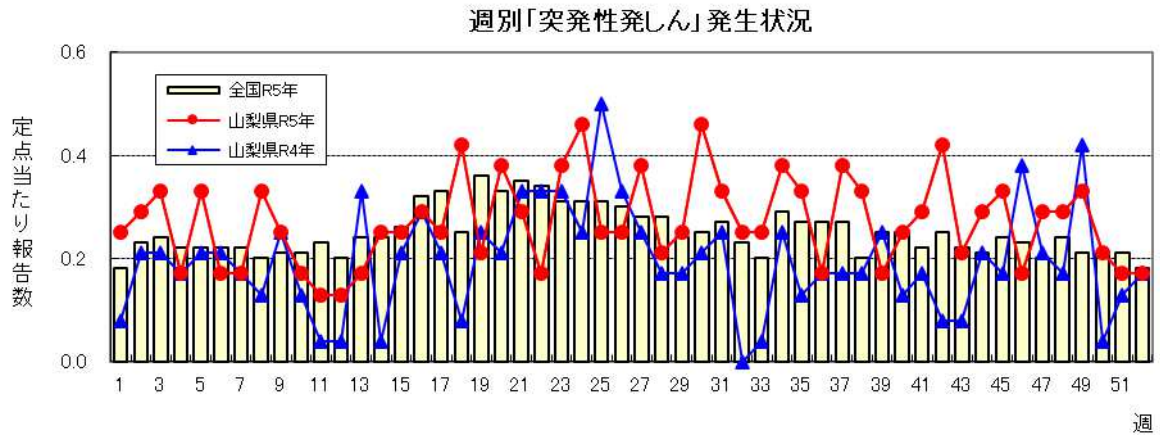
定点から 336 例（定点当たり報告数 14.00）の報告があり、前年 242 例（10.52）より増加した。

最近 5 年間はほぼ横ばいで推移している。



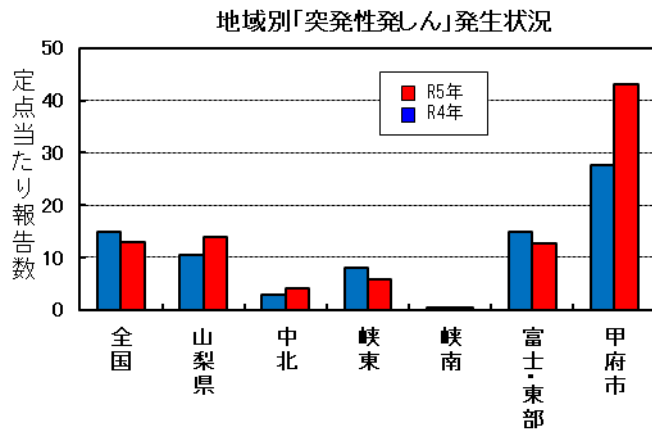
《週別発生状況》

年間を通して報告があつたが大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

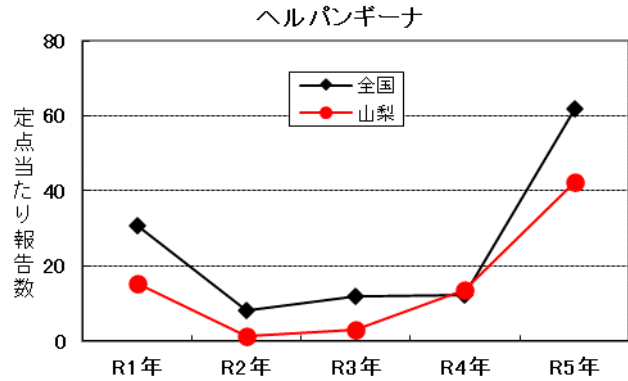
定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（43.00）であり、全体の約 6 割を占めた。



○ ヘルパンギーナ

定点から 1,019 例(定点当たり報告数 42.46) の報告があり、前年 310 例(13.48) より大幅に増加した。

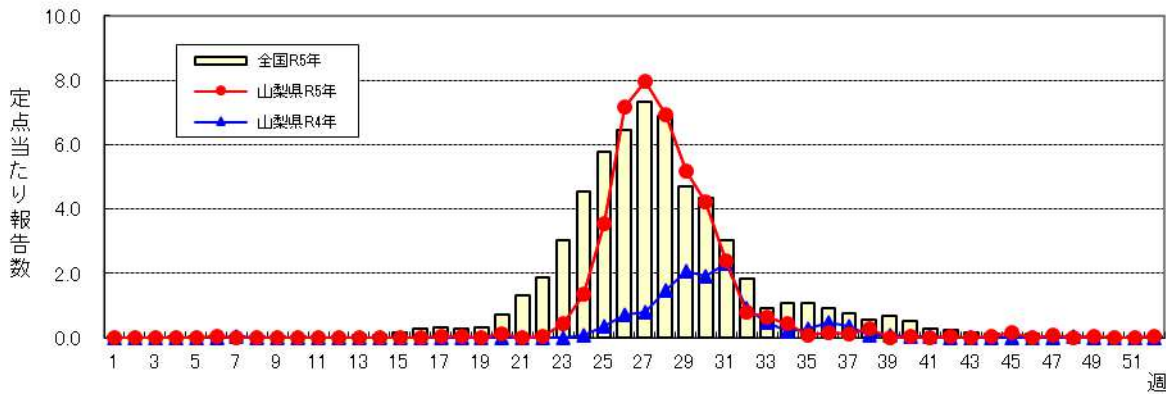
最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

第 27 週 (7.96) をピークとする夏期の流行がみられた。中北保健所管内では第 26 週から 31 週にかけて、富士・東部保健所管内では第 26 週から 29 週にかけて、甲府市保健所管内では第 26 週から第 32 週にかけて警報レベルとなった。

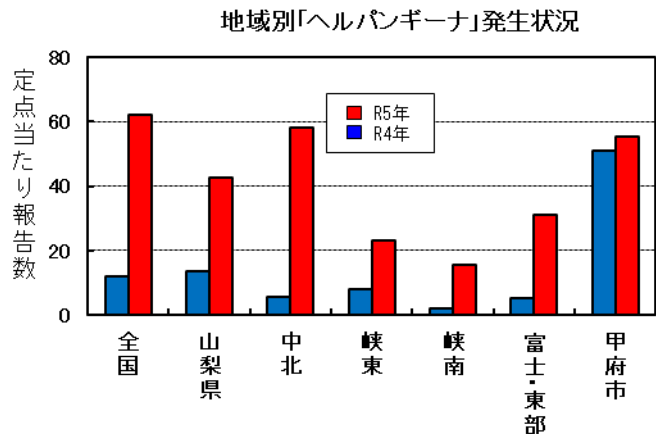
週別「ヘルパンギーナ」発生状況



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内 (58.13) であった。

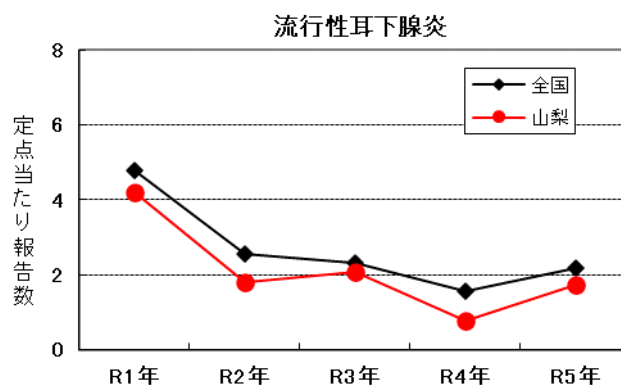
全ての保健所管内で前年より報告数が増加した。



○ 流行性耳下腺炎

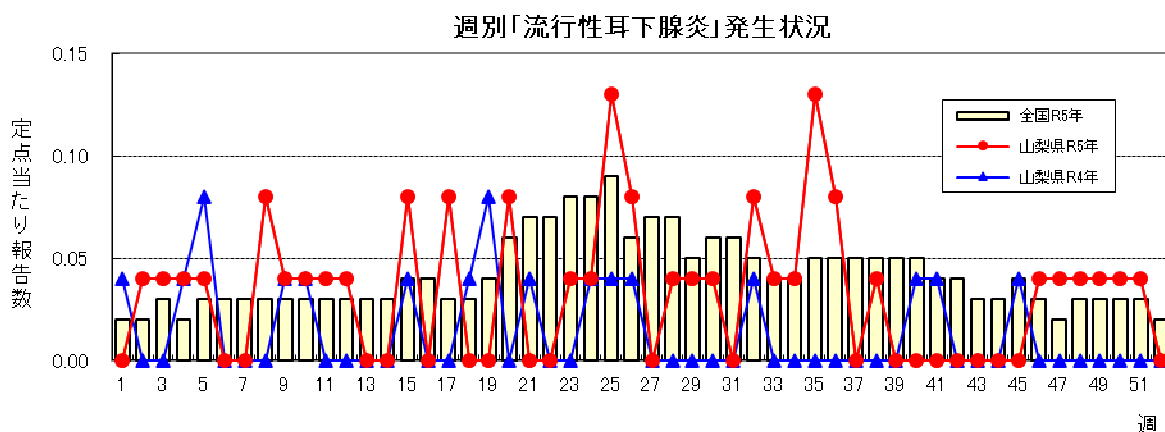
定点から 42 例（定点当たり報告数 1.75）の報告があり、前年 18 例（0.78）より増加した。

過去 5 年間は全国より少ない状況で、同様に推移している。



《週別発生状況》

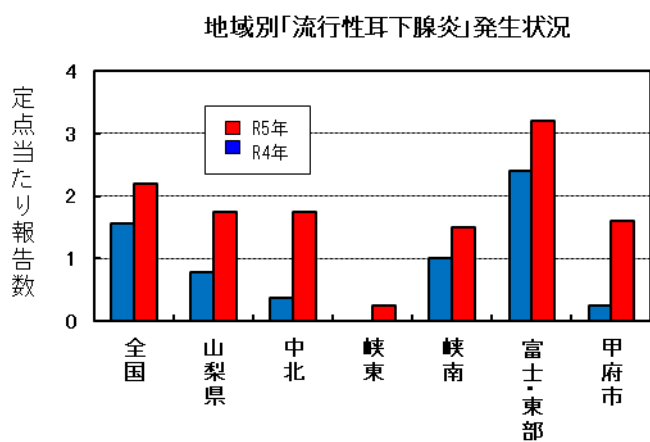
年間を通して報告があつたが、大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（3.20）であった。

全ての保健所管内で前年より報告数が増加した。



2-3 眼科定点から報告された感染症

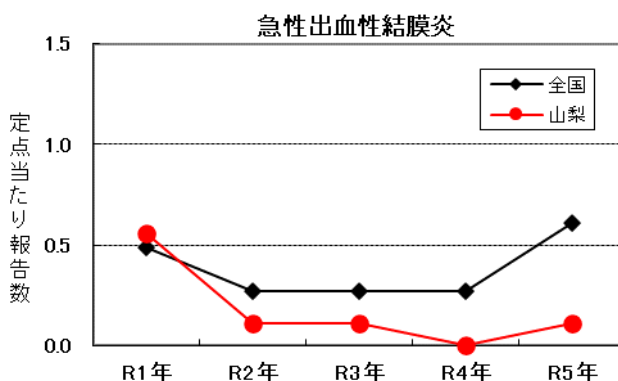
県内9カ所の眼科定点から、対象感染症である急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎について週報として報告される。報告された総数は176例であった。

○ 急性出血性結膜炎

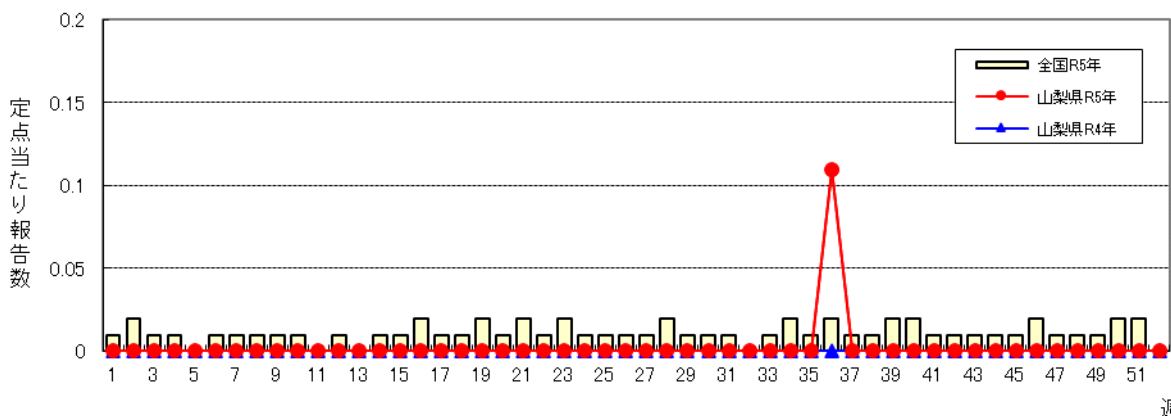
定点から1例(定点当たり報告数0.11)の報告があった。最近4年間ほぼ横ばいで推移している。

《週別発生状況》

第36週に1例(0.11)の報告があった。



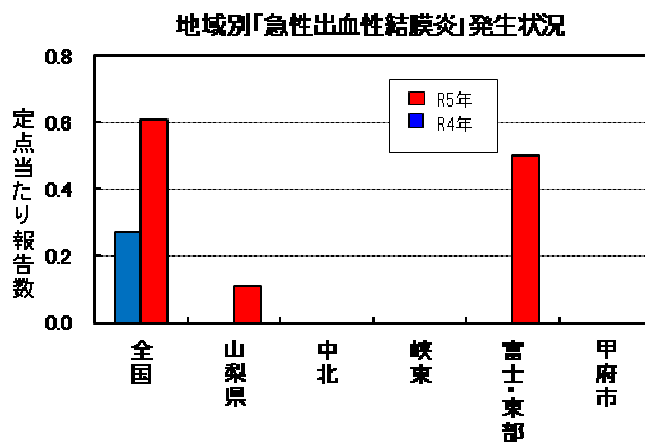
週別「急性出血性結膜炎」発生状況



《地域別発生状況》

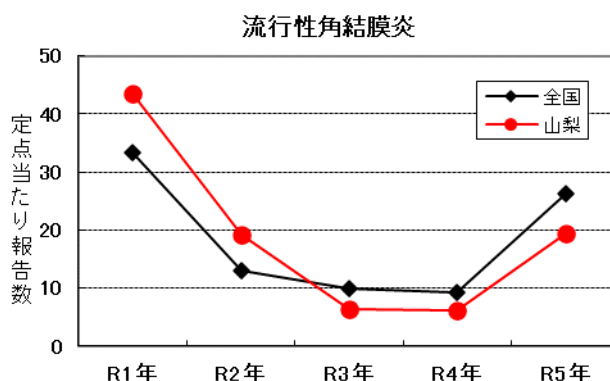
報告があったのは、富士・東部保健所管内(0.50)のみであった。

(峡南保健所管内には定点の指定なし)



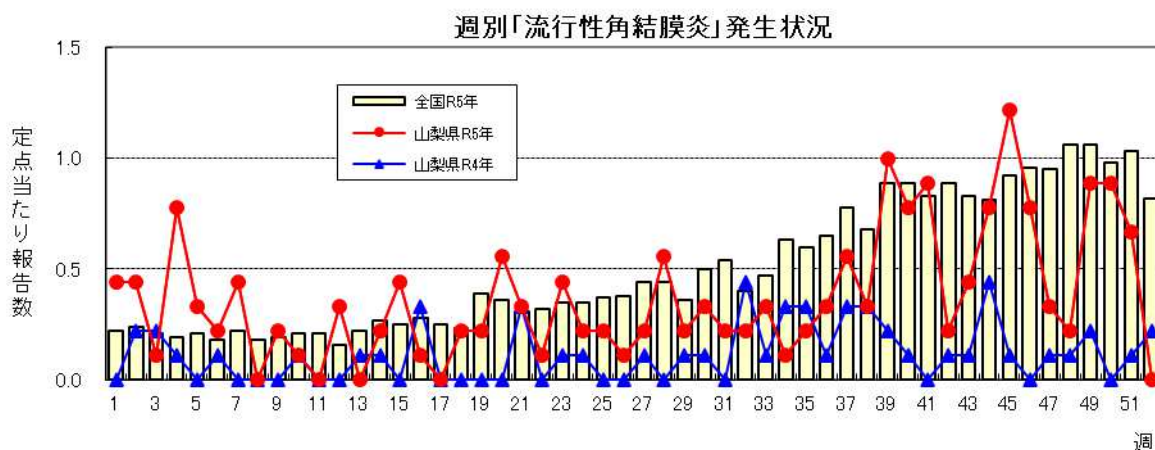
○ 流行性角結膜炎

定点から 175 例（定点当たり報告数 19.44）の報告があり、前年 55 例（6.11）より増加した。



《週別発生状況》

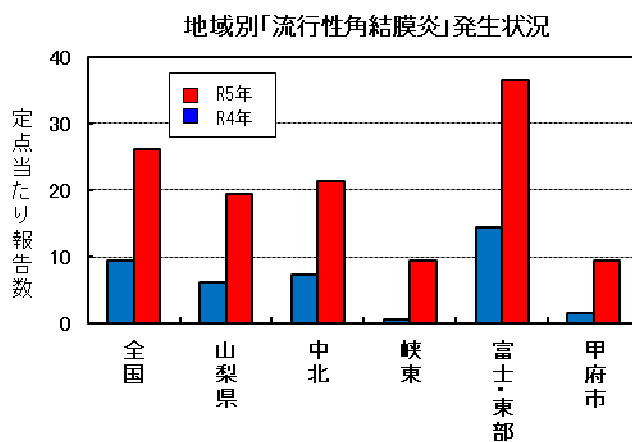
年間を通して報告があったが、第 45 週が 11 例（1.22）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（36.50）であった。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）



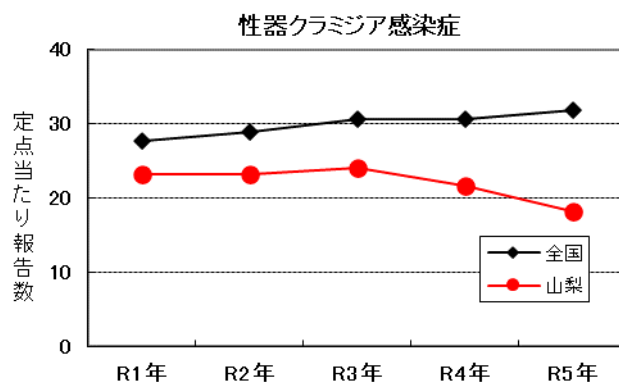
2-4 性感染症定点から報告された感染症

県内9カ所の性感染症（STD）定点から、対象感染症である性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症について月報として報告される。令和5年に報告された総数は332例で、前年（364例）より32例減少した。

○ 性器クラミジア感染症

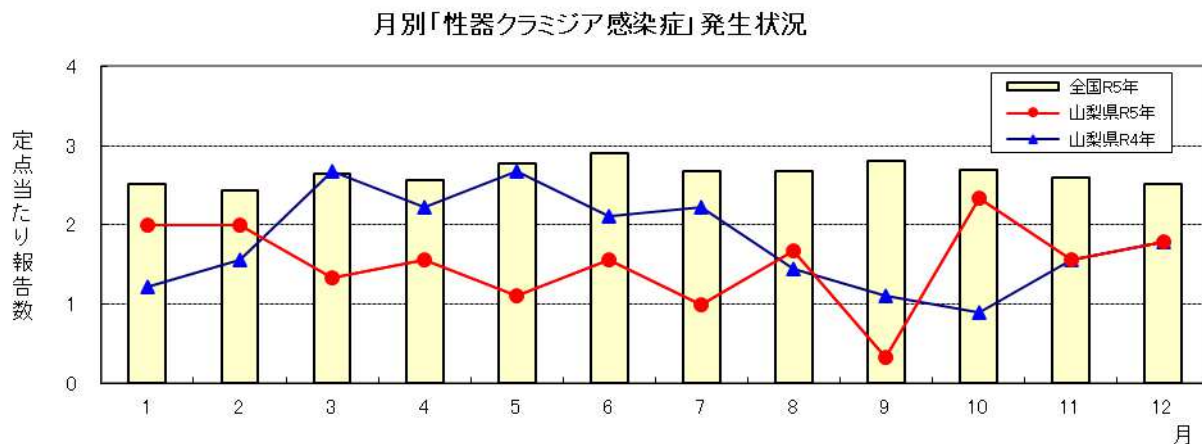
定点から164例（定点当たり報告数18.22）の報告があり、前年195例（21.67）より減少した。

最近5年間は全国で増加傾向であるが、県内では減少傾向で推移している。



《月別報告数》

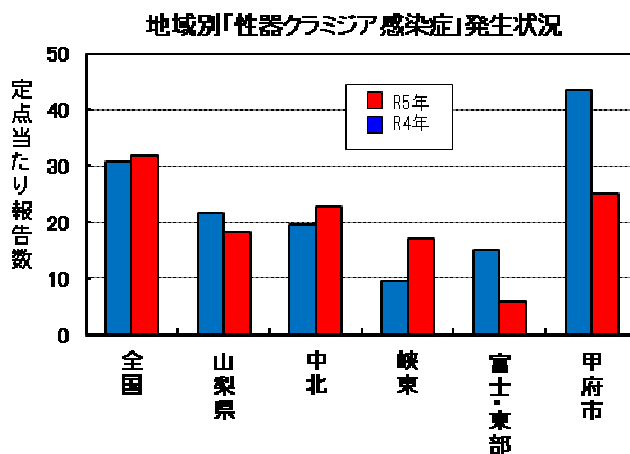
毎月報告があったが、10月が21例（2.33）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（25.00）であった。

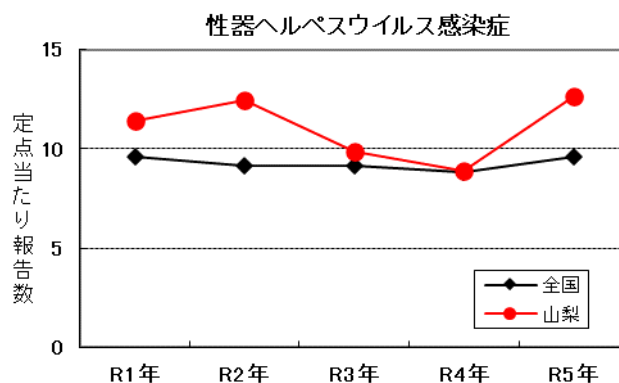
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 性器ヘルペスウイルス感染症

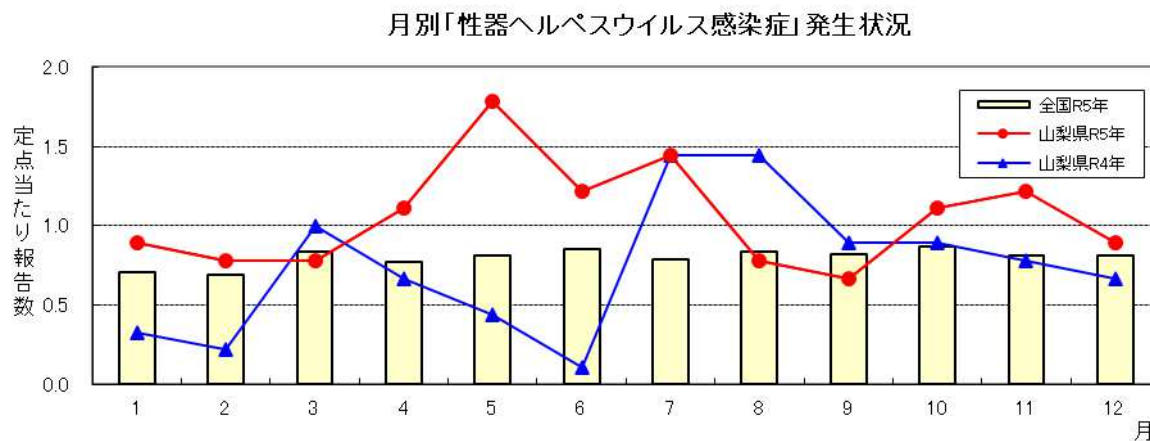
定点から114例（定点当たり報告数12.67）の報告があり、前年80例（8.89）より増加した。

最近5年間はほぼ横ばいで推移している。



《月別発生状況》

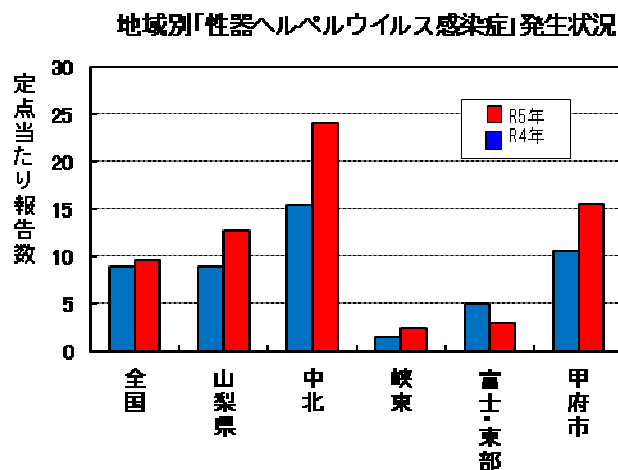
毎月報告があったが、5月が16例（1.78）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（24.00）であった。

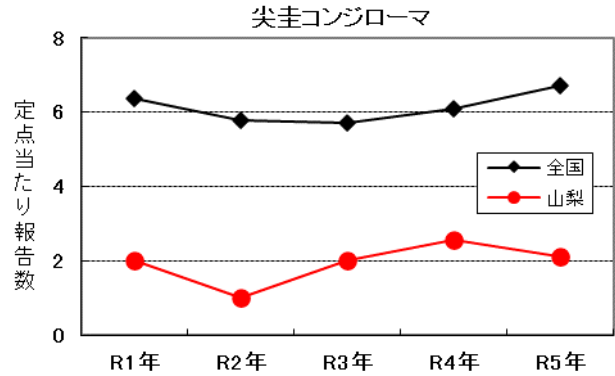
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 尖圭コンジローマ

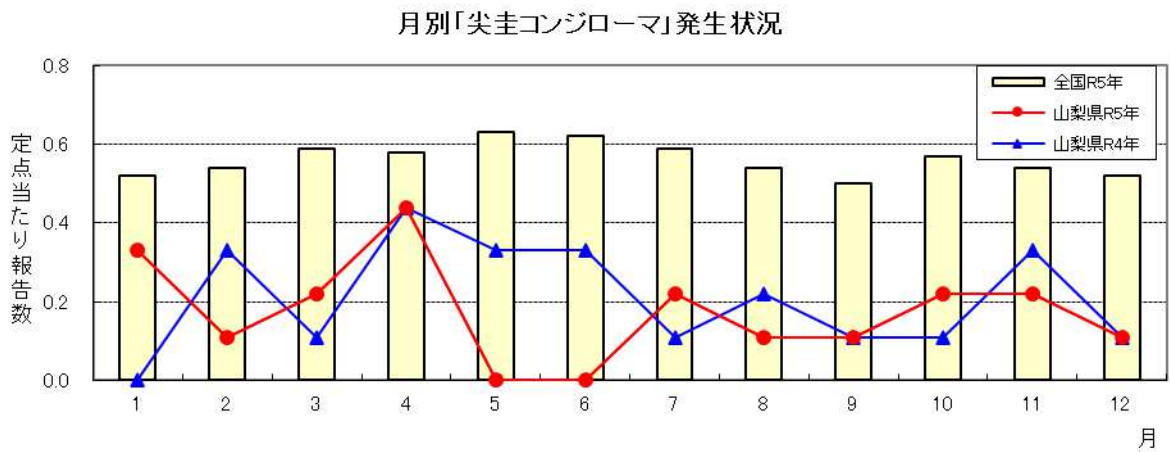
定点から 19 例（定点当たり報告数 2.11）の報告があり、前年 23 例（2.56）よりやや減少した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で、ほぼ横ばい傾向で推移している。



《月別発生状況》

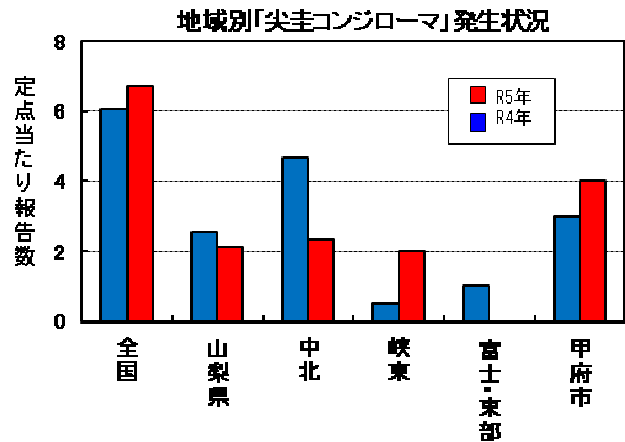
5 月、6 月の報告はなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（4.00）であった。富士・東部保健所管内の報告はなかった。

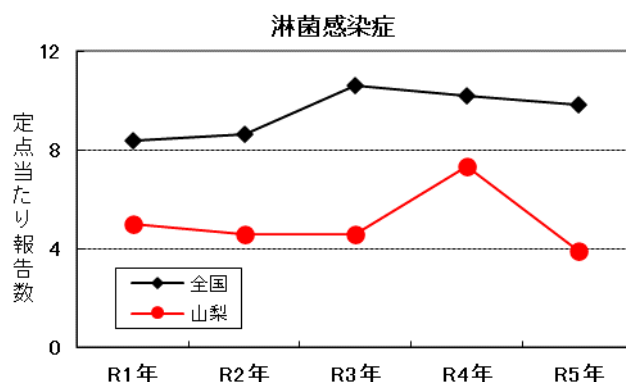
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 淋菌感染症

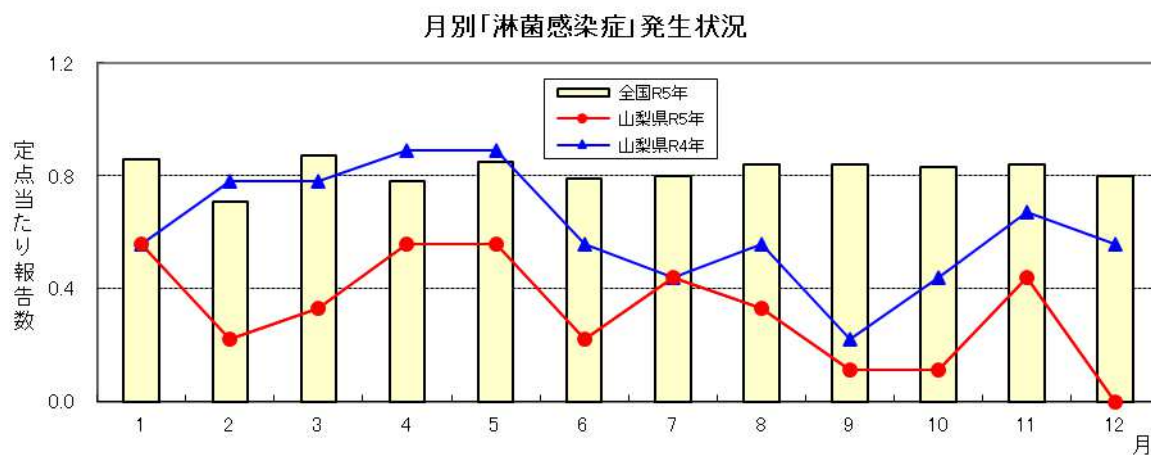
定点から 35 例（定点当たり報告数 3.89）の報告があり、前年 66 例(7.33)より減少した。

最近 5 年間は全国より少ない報告数で、推移している。



《月別発生状況》

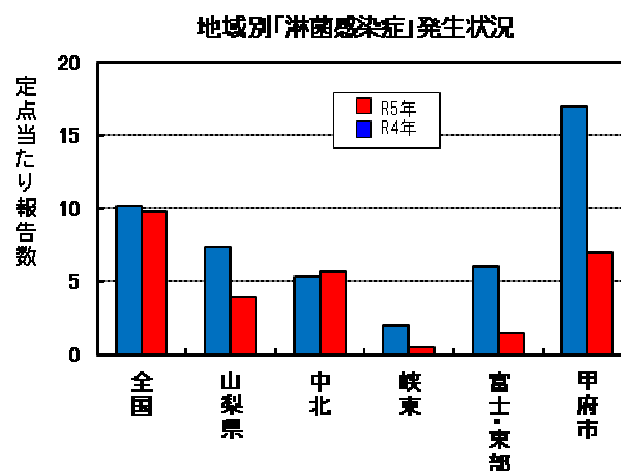
12月を除き毎月報告があった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（7.00）であった。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）



2-5 基幹定点から報告された感染症

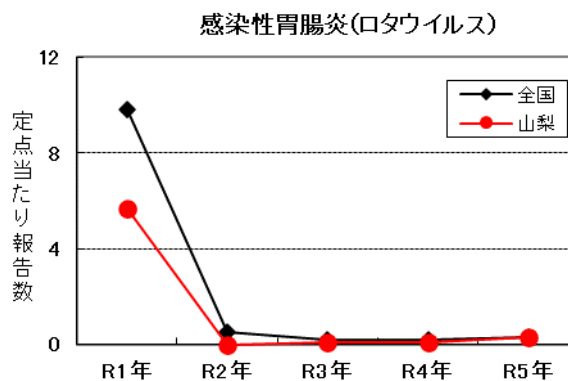
県内 10 カ所の基幹定点から、対象感染症である感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）、クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、マイコプラズマ肺炎及び無菌性髄膜炎は週報として、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、メシチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症は月報として報告される。

基幹定点から報告された総数は 182 例で、報告数が最も多かったのは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 161 例であった。

○ 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）

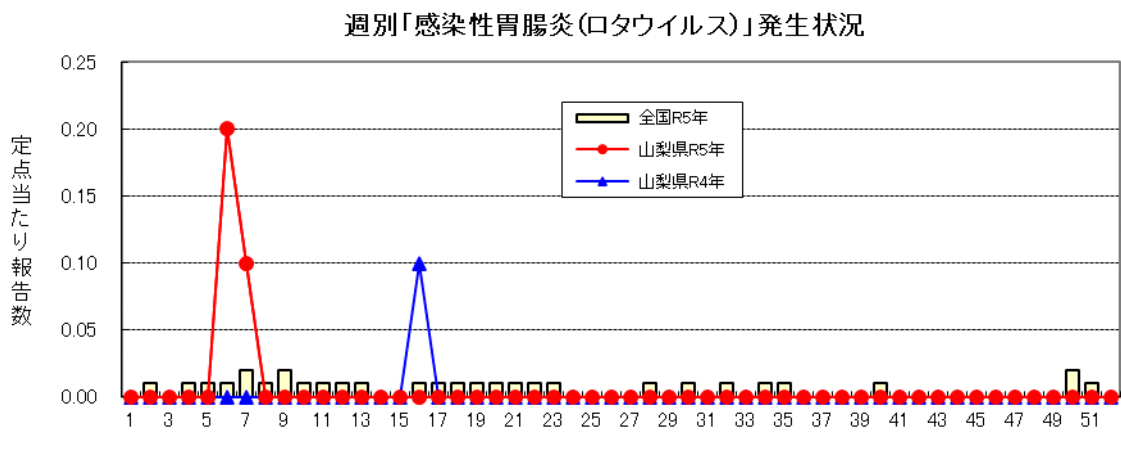
定点から 3 例（0.30）の報告があり、
前年 1 例（0.10）より増加した。

最近 5 年間は全国とほぼ同様に推移し
ている。



《週別発生状況》

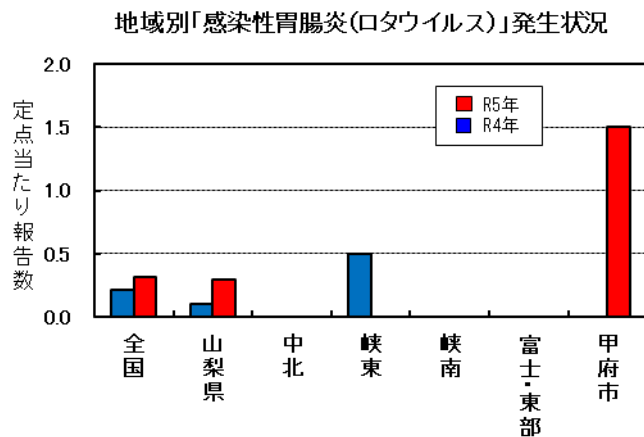
第 6 週に 2 例（0.20）、第 7 週に 1 例（0.10）の報告があった。



週

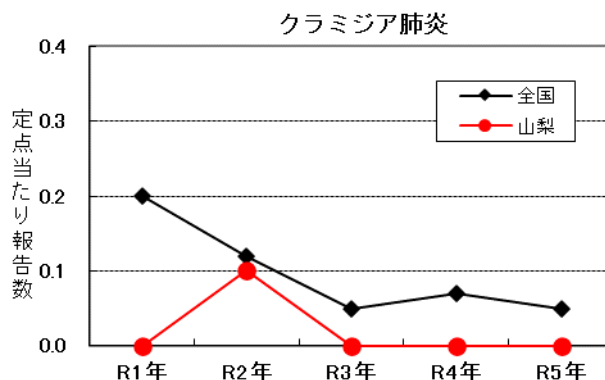
《地域別発生状況》

報告があったのは、甲府市保健所
管内（1.50）のみであった。



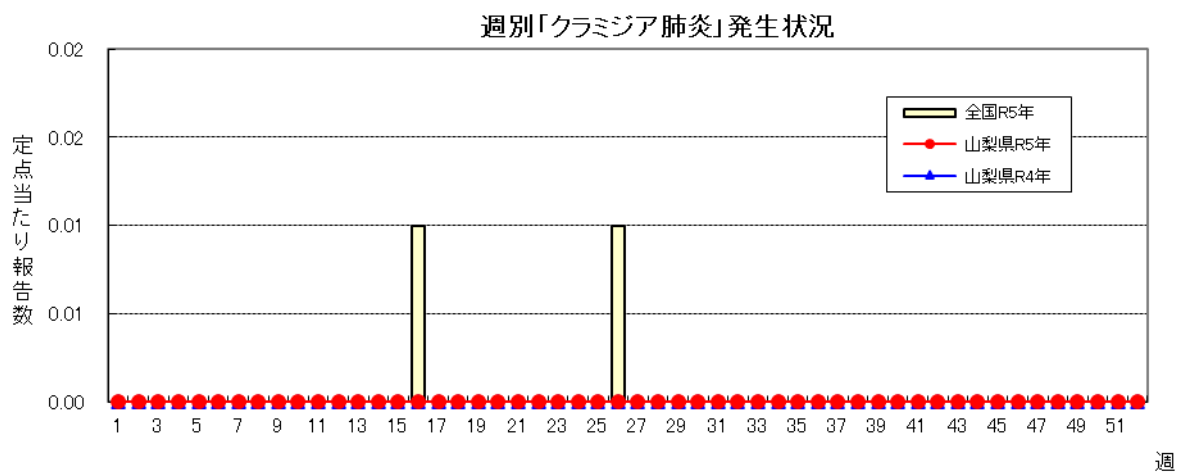
○ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

前年と同様に定点からの報告はなかった。



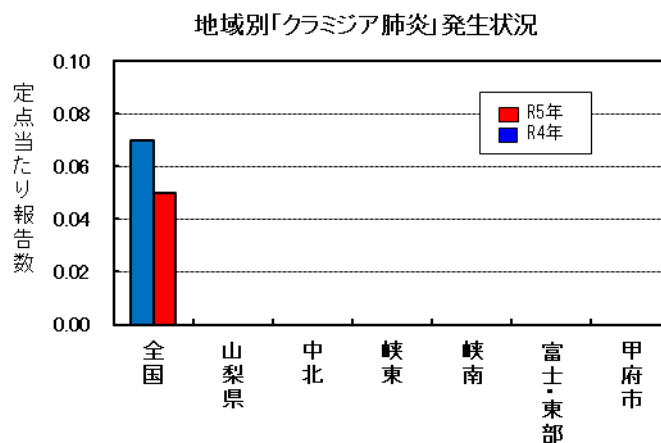
《週別発生状況》

年間を通して定点からの報告はなかった。



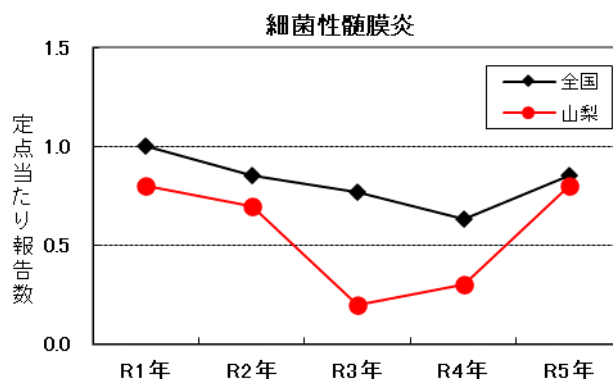
《地域別発生状況》

全ての保健所管内で報告はなかった。



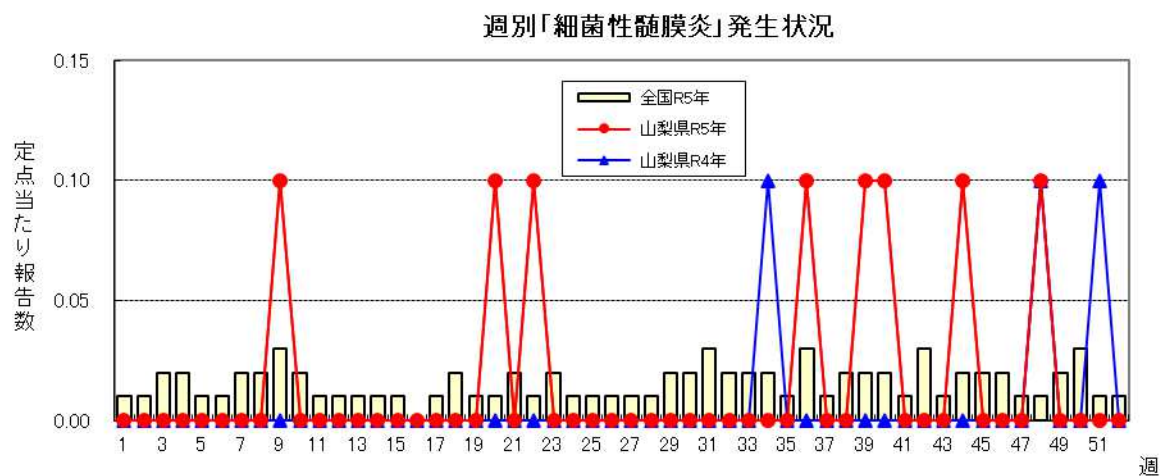
○ 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）

定点から8例（定点当たり報告数0.80）の報告があり、前年3例（0.30）より増加した。
最近3年間は増加傾向で推移している。



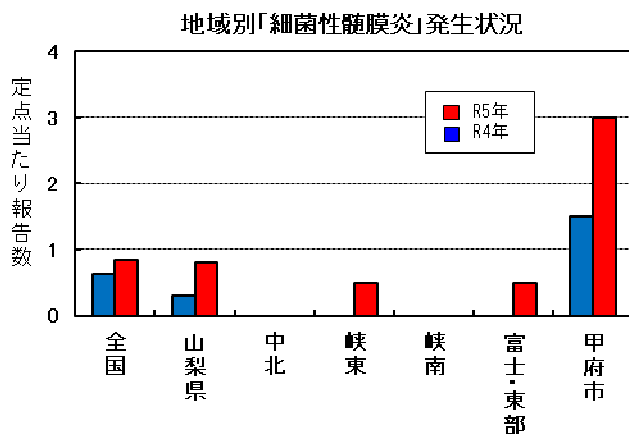
《週別発生状況》

年間を通して報告があった。



《地域別発生状況》

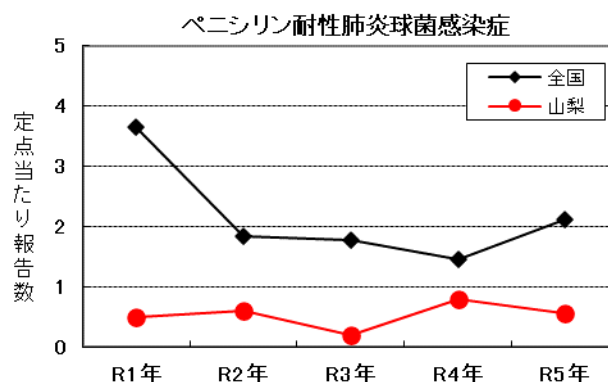
定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（3.00）で県全体の約7割を占めていた。



○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

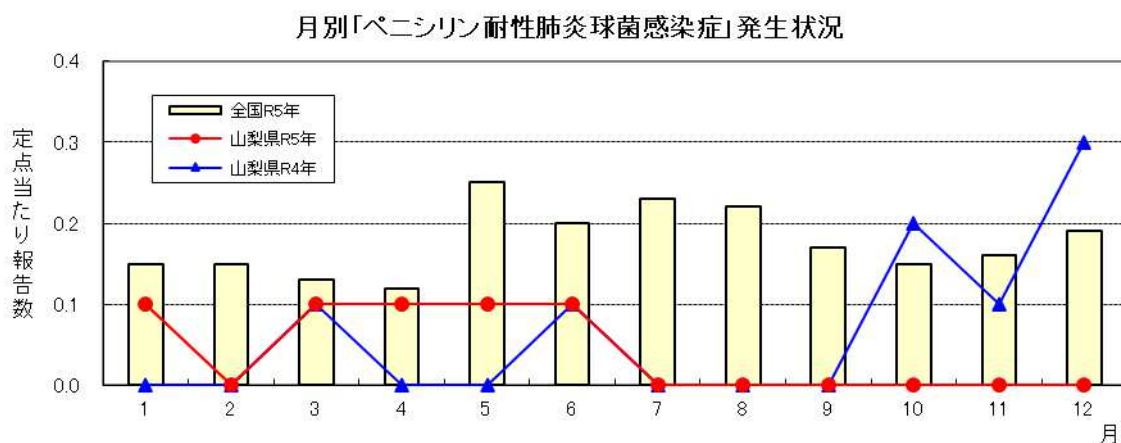
定点から 5 例（定点当たり報告数 0.56）の報告があり、前年 8 例（0.80）より減少した。

最近 5 年間は、ほぼ横ばいに推移している。



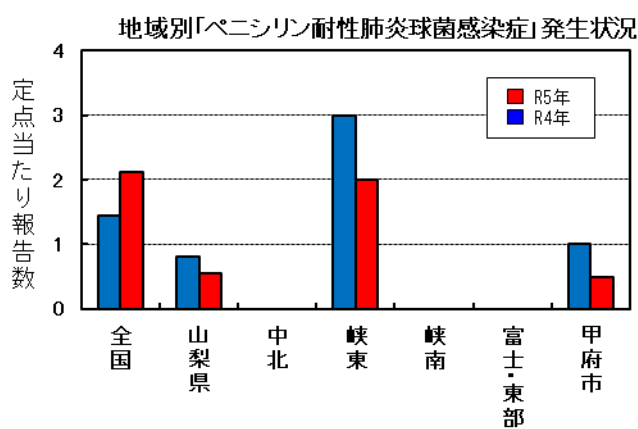
《月別発生状況》

1 月、3 月から 6 月に各 1 例（0.10）の報告があった。



《地域別発生状況》

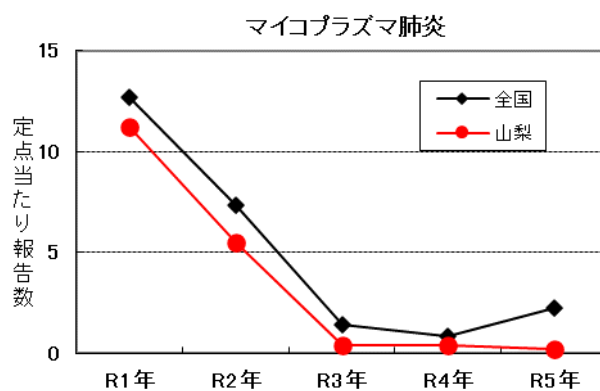
報告があったのは前年と同様、峡東保健所（2.00）及び甲府市保健所管内（0.50）のみであった。



○ マイコプラズマ肺炎

定点から 2 例（定点当たり報告数 0.20）の報告があり、前年 4 例（0.40）より減少した。

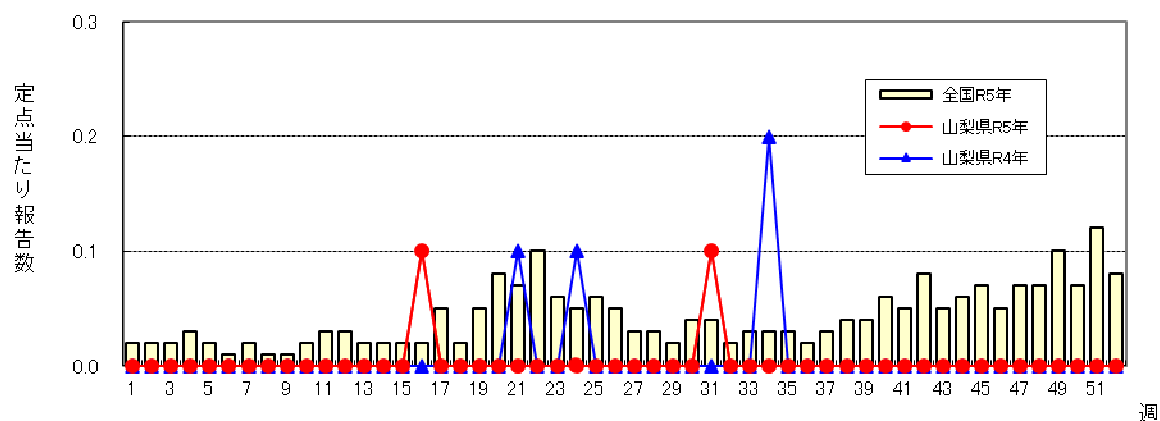
最近 5 年間は全国とほぼ同様に推移している。



《週別発生状況》

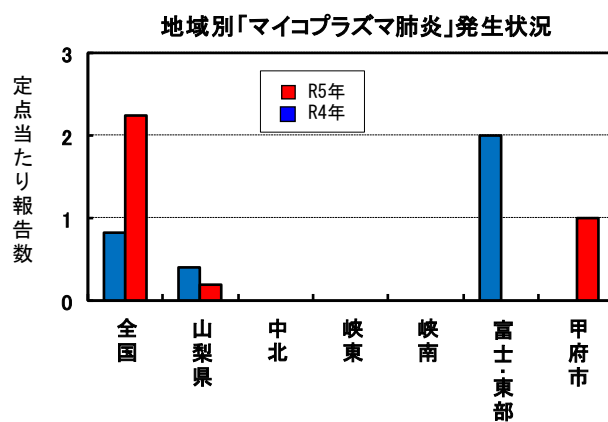
第 16 週及び 31 週に各 1 例（0.10）の報告があった。

週別「マイコプラズマ肺炎」発生状況



《地域別発生状況》

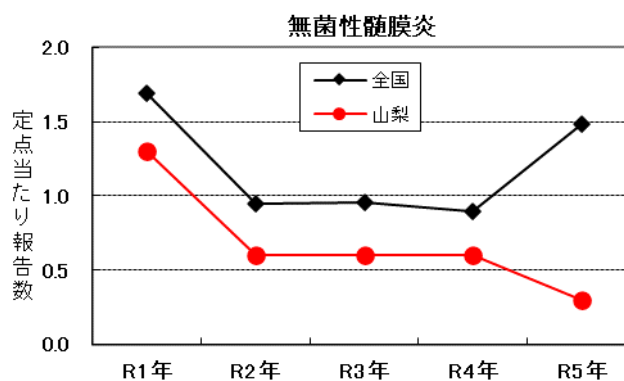
報告があったのは、甲府市保健所管内（1.00）のみであった。



○ 無菌性髄膜炎

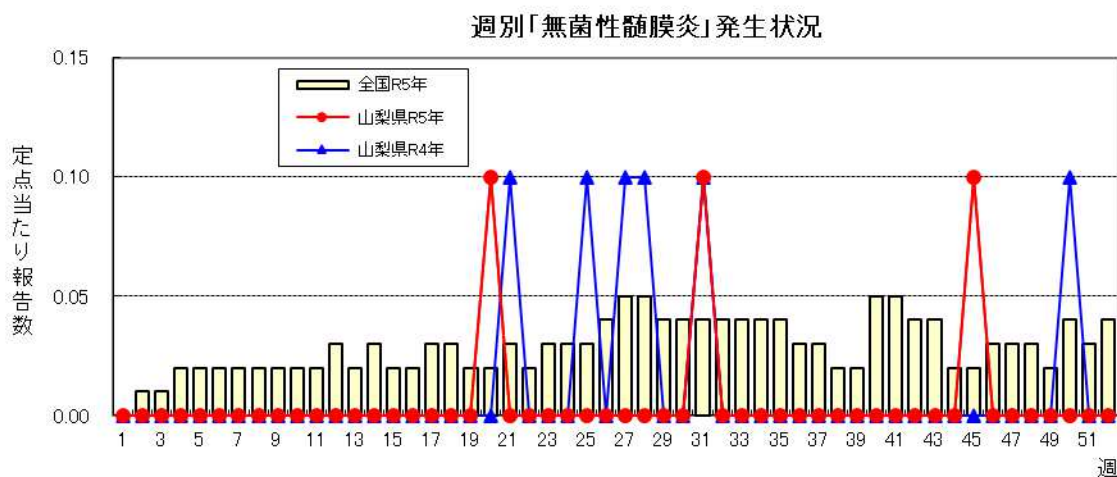
定点から 3 例（定点当たり報告数 0.30）の報告があり、前年 6 例(0.60)より減少した。

最近 5 年間は減少傾向で推移している。



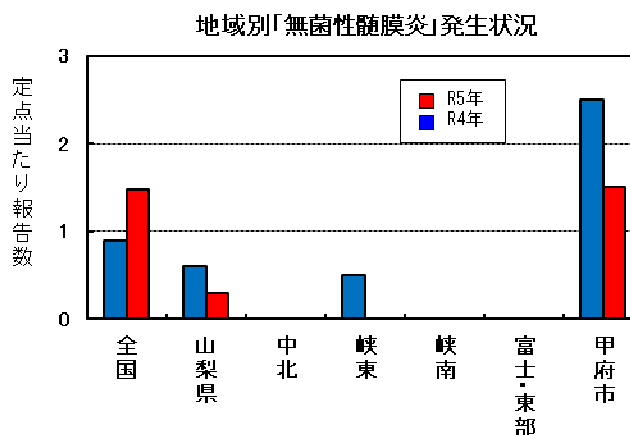
《週別発生状況》

第 20 週、31 週、45 週に各 1 例（0.10）の報告があった。



《地域別発生状況》

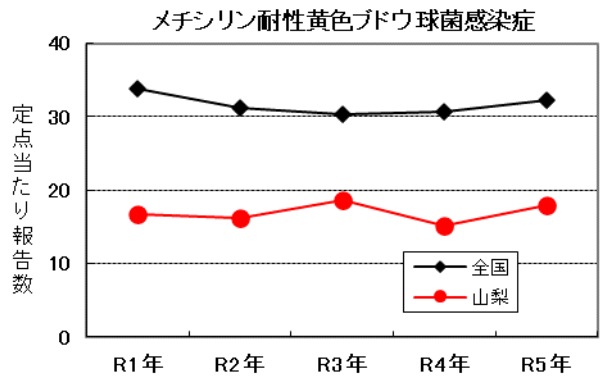
報告があったのは、甲府市保健所管内（1.50）のみであった。



○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

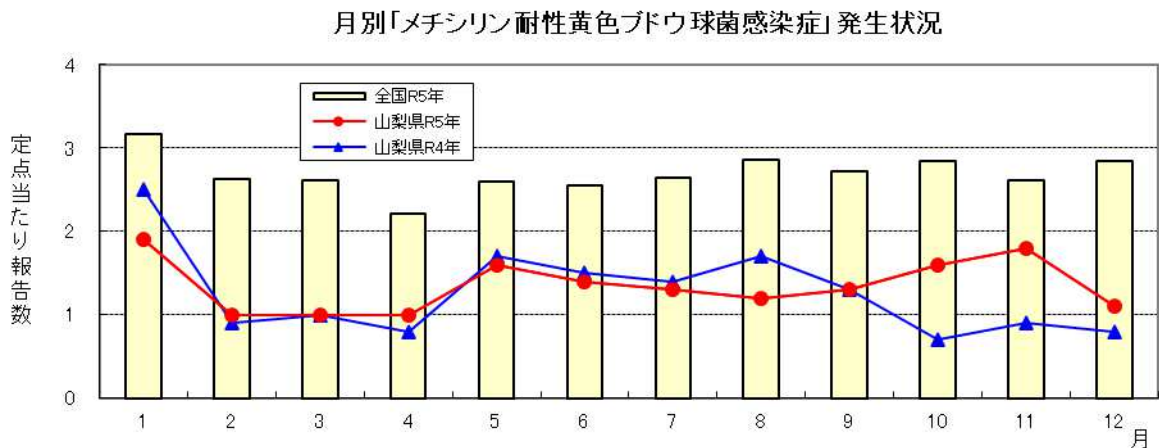
定点から 161 例（定点当たり報告数 17.89）の報告があり、前年 152 例（15.20）よりやや増加した。

最近 5 年間は全国と同様、ほぼ横ばい傾向で推移している。



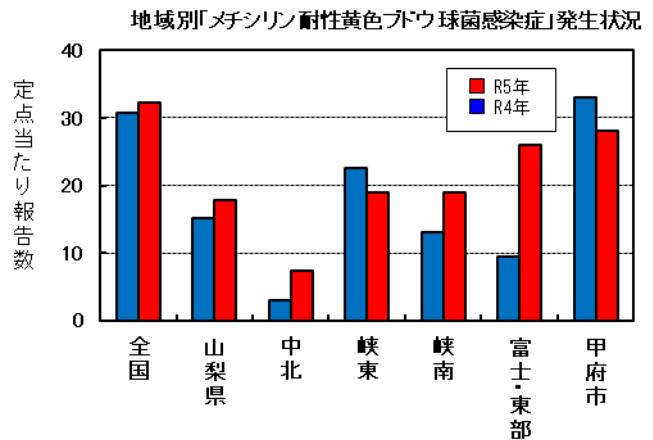
《月別発生状況》

年間を通して報告があったが、全国より少ない報告数であった。



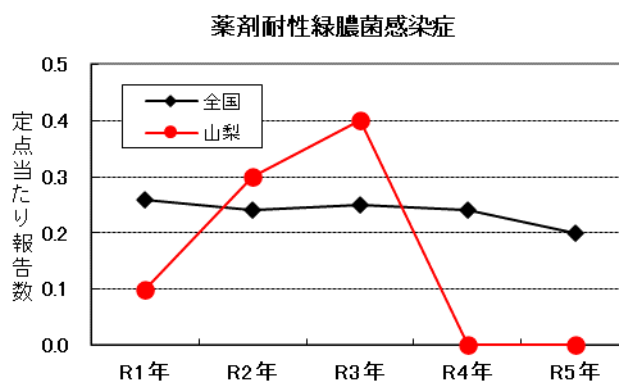
《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内(28.00)であった。



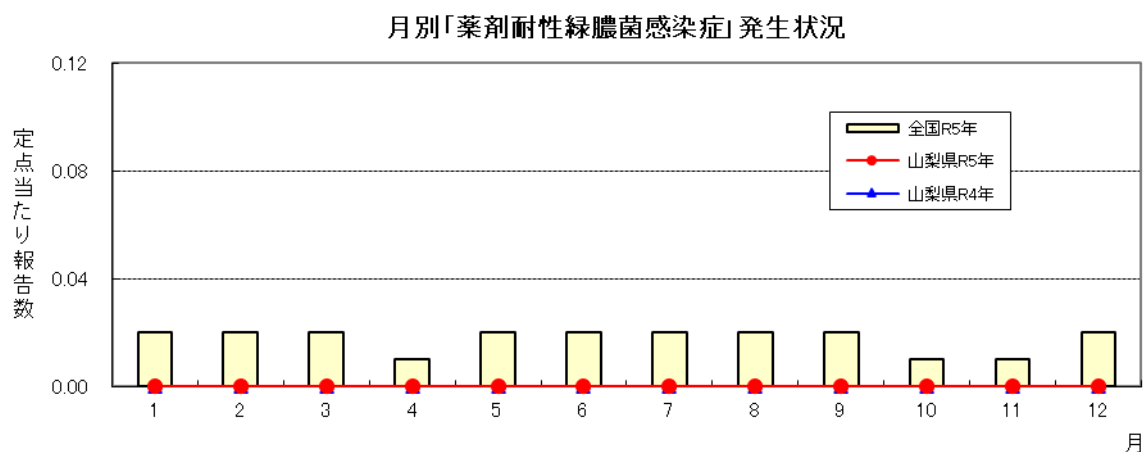
○ 薬剤耐性緑膿菌感染症

前年と同様に定点からの報告はなかった。



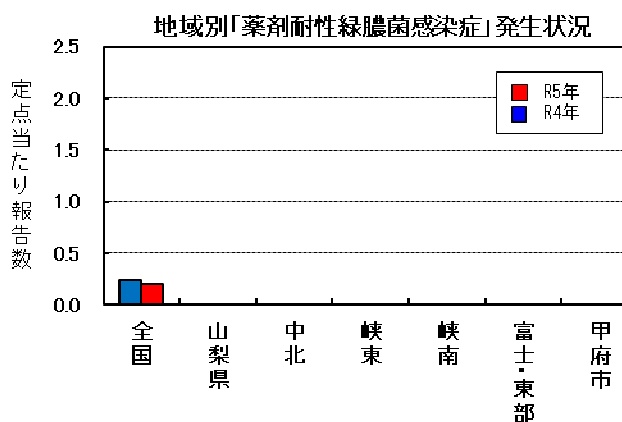
《月別発生状況》

年間をとおして定点からの報告はなかった。



《地域別発生状況》

全ての保健所管内で報告はなかった。



Ⅲ 病原微生物檢出狀況

Ⅲ 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出状況

県内 19 カ所の病原体定点（医療機関）及び県内での集団発生事例において採取された臨床検体 12,314 検体について県衛生環境研究所で検査を実施し、1,376 件のウイルスを検出した。

最も多く検出されたのは新型コロナウイルス 952 件で、検出された全ウイルスの 69.2%を占めた。他にノロウイルス 267 件、インフルエンザウイルス 140 件、パレコウイルスを含むその他ウイルス 17 件が検出された。

| 検出ウイルス | 検出ウイルス | 検出月 | | | | | | | | | | | | 計 | 臨床像 | |
|-------------|-------------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-------|-------------|---------------|
| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | | | |
| インフルエンザウイルス | A(H1)pdm09 | - | - | 3 | - | - | - | - | - | 1 | 1 | 3 | 13 | 21 | インフルエンザ様 | |
| | A(H3)香港型 | 14 | 8 | 17 | 17 | - | - | - | - | 5 | 22 | 24 | 9 | 116 | | |
| | B型ビクトリア系統 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 | | 3 |
| | B型山形系統 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 0 | | 0 |
| RSウイルス | サブクラスB | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | 1 | RS | | |
| ヒトヘルペスウイルス | 6型 VariantB | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 2 | 3 | 急性脳炎 | |
| パレコウイルス | 3型 | - | - | - | - | - | - | - | 2 | - | - | - | 2 | 急性脳炎 | | |
| | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 | - | - | 6 | 胃腸炎症状 | |
| アデノウイルス | 56型 | - | 1 | 1 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 3 | 3 | 流行性角結膜炎 | |
| 新型コロナウイルス | | 563 | 183 | 19 | 10 | 4 | 23 | 3 | 12 | 65 | 36 | 16 | 18 | 952 | 新型コロナウイルス疑い | |
| ノロウイルス | GI | 3 | - | - | - | 3 | - | - | - | - | - | - | - | 2 | 8 | 胃腸炎症状 |
| | GII | 50 | 50 | 19 | 6 | - | 11 | - | 3 | - | 13 | 40 | 67 | 259 | | |
| E型肝炎ウイルス | G3型 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | 1 | 1 | 発熱、全身倦怠感、食欲不振 |
| エムボックスウイルス | | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | 1 | 1 | 発熱、頭痛、倦怠感 |
| 計 | | 630 | 242 | 60 | 34 | 7 | 35 | 5 | 18 | 71 | 78 | 83 | 113 | 1,376 | | |

2 細菌検出状況

三類感染症の患者から分離された菌株について県衛生環境研究所で同定試験、血清型及び毒素型検査を実施したところ、次のとおりであった。

| 検出月 | 疾病名 | 検出菌 | 検出数 |
|-----|-------------|------------------------|-----|
| 5月 | 腸管出血性大腸菌感染症 | EHEC O26:HNT (Stx1) | 2 |
| 6月 | 腸管出血性大腸菌感染症 | EHEC O157:H7 (Stx1,2) | 1 |
| | | EHEC O157:HNM (Stx2) | 1 |
| 7月 | 腸管出血性大腸菌感染症 | EHEC O157:HNT (Stx1,2) | 1 |
| 8月 | 腸管出血性大腸菌感染症 | EHEC O157:H7 (Stx2) | 4 |
| | | EHEC O26:H11 (Stx1) | 42 |
| 9月 | 腸管出血性大腸菌感染症 | EHEC O157:H7 (Stx2) | 1 |
| | | EHEC O157:H7 (Stx1,2) | 1 |
| | | EHEC O26:H11 (Stx1) | 13 |
| 10月 | 腸管出血性大腸菌感染症 | EHEC O157:H7 (Stx1,2) | 2 |

EHEC : 腸管出血性大腸菌

IV 參考資料

1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧

令和5年5月8日時点

| | 患者定点 | | | | | | 病原体定点 | | | | 医療機関名称 | 主たる診療科 | |
|----|------|---|----|----|---|---|-------|----|---|---|---------------------------|-------------------|-----|
| | 小 | 内 | IC | 眼 | S | 基 | 疑 | イ指 | 小 | 眼 | | | 基 |
| 甲府 | 小 | | IC | | | | | | 小 | | | 隈部小児科医院 | 小 |
| | 小 | | IC | | | | | | 小 | | | 今井小児科 | 小 |
| | 小 | | IC | | | | | イ指 | | | | 小松小児科医院 | 小 |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | いいじまこどもクリニック | 小 |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | 横田内科小児科医院 | 小 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | 竹居医院 | 内 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | 桜林内科消化器科医院 | 内 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | 内科小児科小野医院 | 内 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | ほしの内科クリニック | 内 |
| | | | | 眼 | | | | | | 眼 | | 佐々木眼科医院 | 眼 |
| | | | | 眼 | | | | | | | | 二宮眼科医院 | 眼 |
| | | | | | S | | | | | | | 梶山クリニック | 産・婦 |
| | | | | | S | | | | | | | 鈴木・野村泌尿器科クリニック | 泌 |
| | | | | | | 基 | 疑 | | | | 基 | 基 市立甲府病院 | 他 |
| | | | | | 基 | 疑 | | | | 基 | 基 地方独立行政法人山梨県病院機構山梨県立中央病院 | 他 | |
| | 5 | 4 | 9 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | | |
| 中北 | 小 | | IC | | | | | | | | | 中島医院 | 小 |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | 森川医院 | 小 |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | 西野内科医院 | 小 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | 竜王共立診療所 | 内 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | 大沢医院 | 内 |
| | | | | 眼 | | | | | | | | フルヤ眼科医院 | 眼 |
| | | | | | S | | | | | | | 竜王レディースクリニック | 産・婦 |
| | | | | | | 基 | | | | | 基 | 基 山梨大学医学部附属病院 | 他 |
| | | 小 | | IC | | | | イ指 | | | | 三井医院 | 小 |
| | | 小 | | IC | | | | | | | | にこにこクリニック こでら小児科 | 小 |
| | | 小 | | IC | | | | | | | | こもれびこどもクリニック | 小 |
| | | 小 | | IC | | | | | | | | アルプスこどもクリニック | 小 |
| | | 小 | | IC | | | | | | | | いいづかこどもとおとなのクリニック | 小 |
| | | | 内 | IC | | | | | | | | 北杜市立白州診療所 | 内 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | 本町クリニック | 内 | |
| | | 内 | IC | | | | | | | | 志村内科医院 | 内 | |
| | | | 眼 | | | | | | | | 千野眼科医院 | 眼 | |
| | | | 眼 | | | | | | | | 堀内眼科 | 眼 | |
| | | | | S | | | | | | | まえざわクリニック | 泌 | |
| | | | | S | | | | | | | 女性クリニック秋山医院 | 婦 | |
| | | | | | 基 | | | | | 基 | 基 巨摩共立病院 | 他 | |
| | | | | | 基 | 疑 | | | | 基 | 基 北杜市立甲陽病院 | 他 | |
| | 8 | 5 | 13 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 | | |

| | 患者定点 | | | | | | | 病原体定点 | | | | 医療機関名称 | 主たる診療科 | | | |
|-------|------|----|----|---|---|----|---|-------|----|---|----|---------------|------------------|-----------------|-------------|----|
| | 小 | 内 | IC | 眼 | S | 基 | 疑 | イ指 | 小 | 眼 | 基 | | | | | |
| 峡東 | 小 | | IC | | | | | | | | | | 篠原医院 | 小 | | |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | | 三枝クリニック | 小 | | |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | | あめみや医院 | 小 | | |
| | 小 | | IC | | | | | | イ指 | | | | 池田内科小児科医院 | 小 | | |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | | 松里診療所 | 内 | | |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | | 飯島医院 | 内 | | |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | | 黒沢内科 | 内 | | |
| | | | | 眼 | | | | | | | | | 古川眼科医院 | 眼 | | |
| | | | | 眼 | | | | | | | | | 古屋眼科 | 眼 | | |
| | | | | | S | | | | | | | | 加納岩総合病院 | 他 | | |
| | | | | S | | | | | | | | 長坂クリニック | 産婦 | | | |
| | | | | | 基 | 疑 | | | | | 基 | 山梨厚生病院 | 他 | | | |
| | | | | | 基 | | | | | | 基 | 甲州リハビリテーション病院 | 他 | | | |
| | 4 | 3 | 7 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | | | | | |
| 峡南 | 小 | | IC | | | | | | | | | | 溝部医院 | 小 | | |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | | 南部町国民健康保険診療所 | 小 | | |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | | 飯富病院 | 他 | | |
| | | | | | | 基 | 疑 | | | | | 基 | 富士川病院 | 他 | | |
| | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | | | | | |
| 富士・東部 | 小 | | IC | | | | | | | | | | イ指 | | 吉田医院 | 小 |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | | 小 | | 武井クリニック | 小 |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | | | | 都留市立病院 | 他 |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | | | | つゆきこどもクリニック | 小 |
| | 小 | | IC | | | | | | | | | | | | いしはらクリニック | 小 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | | | | 堀田医院 | 内 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | | | | 川原医院 | 内 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | | | | しまだ医院 | 内 |
| | | 内 | IC | | | | | | | | | | | | 富士ニコニコクリニック | 内 |
| | | | | 眼 | | | | | | | | | | | 小林眼科医院 | 眼 |
| | | | | 眼 | | | | | | | | | | | 野村眼科医院 | 眼 |
| | | | | | S | | | | | | | | | | 武者医院 | 婦 |
| | | | | | S | | | | | | | | | | 渡辺医院 | 産婦 |
| | | | | | | 基 | 疑 | | | | | | 基 | 国民健康保険 富士吉田市立病院 | 他 | |
| | | | | | 基 | 疑 | | | | | | 基 | 地方独立行政法人大月市立中央病院 | 他 | | |
| | 5 | 4 | 9 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 | | | | | |
| 合計 | 24 | 17 | 41 | 9 | 9 | 10 | 7 | 5 | 3 | 1 | 10 | | | | | |

【患者定点】

小：小児科定点
 内：内科定点
 IC：インフルエンザ／COVID-19定点
 眼：眼科定点
 S：性感染症定点
 基：基幹定点の病院
 疑：疑似症定点

【病原体定点】

イ指：インフルエンザ病原体定点(指定提出機関)
 小：小児科病原体定点
 基：基幹病原体定点
 眼：眼科病原体定点

2 全数把握対象感染症の報告数（令和5年）

| 疾 病 | 報告数 | | 疾 病 | 報告数 | |
|--------------------------------|--------|-----|---|--------|--------|
| | 全国 | 山梨県 | | 全国 | 山梨県 |
| 一類感染症 | | | ハンタウイルス肺症候群 | - | - |
| エボラ出血熱 | - | - | Bウイルス病 | - | - |
| クリミア・コンゴ出血熱 | - | - | 鼻疽 | - | - |
| 痘そう | - | - | ブルセラ症 | 2 | - |
| 南米出血熱 | - | - | ベネズエラウマ脳炎 | - | - |
| ペスト | - | - | ヘンドラウイルス感染症 | - | - |
| マールブルグ病 | - | - | 発しんチフス | - | - |
| ラッサ熱 | - | - | ボツリヌス症 | - | - |
| 二類感染症 | | | マラリア | 36 | - |
| 急性灰白髄炎 | - | - | 野兔病 | - | - |
| 結核 | 15,382 | 53 | ライム病 | 28 | 1 |
| ジフテリア | - | - | リッサウイルス感染症 | - | - |
| 重症急性呼吸器症候群 (SARSコロナウイルスに限る) | - | - | リフトバレー熱 | - | - |
| 中東呼吸器候群 (MERSコロナウイルスに限る) | - | - | 類鼻疽 | - | - |
| 鳥インフルエンザ(H5N1) | - | - | レジオネラ症 | 2,288 | 15 |
| 鳥インフルエンザ(H7N9) | - | - | レプトスピラ症 | 49 | - |
| 三類感染症 | | | ロッキー山紅斑熱 | - | - |
| コレラ | 2 | - | 五類感染症 | | |
| 細菌性赤痢 | 47 | - | アメーバ赤痢 | 489 | 3 |
| 腸管出血性大腸菌感染症 | 3,813 | 69 | ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く) | 244 | 2 |
| 腸チフス | 39 | - | カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 | 2,113 | 7 |
| バラチフス | 9 | - | 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。) | 55 | - |
| 四類感染症 | | | 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、 ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、 ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く) | 658 | 8 |
| E型肝炎 | 552 | 1 | クリプトスポリジウム症 | 16 | - |
| ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む) | - | - | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 170 | 1 |
| A型肝炎 | 56 | - | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | 949 | 3 |
| エキノコックス症 | 13 | - | 後天性免疫不全症候群 | 951 | 2 |
| エムボックス | 225 | 1 | ジアルジア症 | 39 | - |
| 黄熱 | - | - | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | 567 | 1 |
| オウム病 | 8 | - | 侵襲性髄膜炎菌感染症 | 21 | - |
| オムスク出血熱 | - | - | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 1,988 | 9 |
| 回帰熱 | 23 | - | 水痘(入院例) | 407 | 2 |
| キャサスル森林病 | - | - | 先天性風しん症候群 | - | - |
| Q熱 | 1 | - | 梅毒 | 15,078 | 32 |
| 狂犬病 | - | - | 播種性クリプトコックス症 | 173 | 1 |
| コクシジオイデス症 | 4 | - | 破傷風 | 110 | 2 |
| ジカウイルス感染症 | 2 | - | バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | - | - |
| 重症熱性血小板減少症候群 (SFTSウイルスに限る) | 134 | - | バンコマイシン耐性腸球菌感染症 | 115 | - |
| 腎症候性出血熱 | - | - | 百日咳 | 1,015 | - |
| 西部ウマ脳炎 | - | - | 風しん | 12 | - |
| ダニ媒介脳炎 | - | - | 麻疹 | 28 | - |
| 炭疽 | - | - | 薬剤耐性アシネトバクター感染症 | 14 | - |
| チクングニア熱 | 7 | - | 新型インフルエンザ等感染症 | | |
| つつが虫病 | 444 | 2 | 新型インフルエンザ | - | - |
| デング熱 | 176 | - | 再興型インフルエンザ | - | - |
| 東部ウマ脳炎 | - | - | 新型コロナウイルス感染症 | * | 37,916 |
| 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く) | - | - | 再興型コロナウイルス感染症 | - | - |
| ニパウイルス感染症 | - | - | | | |
| 日本紅斑熱 | 501 | - | | | |
| 日本脳炎 | 6 | - | | | |

*別途公表資料を参照ください。山梨県の報告数は令和5年1月1日から5月7日までの数値。

(2024年3月集計)

3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数（令和5年）

| 感染症 | 全 国 | | 山 梨 県 | |
|---|-----------|--------------|--------|--------------|
| | 報告数 | 定点当たり 報告数 | 報告数 | 定点当たり 報告数 |
| RSウイルス感染症 | 145,538 | 46.35 | 670 | 27.92 |
| 咽頭結膜熱 | 178,140 | 56.73 | 454 | 18.92 |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 266,187 | 84.77 | 377 | 15.71 |
| 感染性胃腸炎 | 765,828 | 243.89 | 6,158 | 256.58 |
| 水痘 | 16,263 | 5.18 | 62 | 2.58 |
| 手足口病 | 100,105 | 31.88 | 336 | 14.00 |
| 伝染性紅斑 | 2,220 | 0.71 | 7 | 0.29 |
| 突発性発しん | 40,817 | 13.00 | 336 | 14.00 |
| ヘルパンギーナ | 194,745 | 62.02 | 1,019 | 42.46 |
| 流行性耳下腺炎 | 6,866 | 2.19 | 42 | 1.75 |
| インフルエンザ | 2,311,266 | 468.63 | 15,596 | 380.39 |
| COVID-19* | 1,371,789 | 278.14 | 13,354 | 325.71 |
| 急性出血性結膜炎 | 424 | 0.61 | 1 | 0.11 |
| 流行性角結膜炎 | 18,177 | 26.19 | 175 | 19.44 |
| 性器クラミジア感染症 | 31,269 | 31.78 | 164 | 18.22 |
| 性器ヘルペスウイルス感染症 | 9,469 | 9.62 | 114 | 12.67 |
| 尖圭コンジローマ | 6,621 | 6.73 | 19 | 2.11 |
| 淋菌感染症 | 9,674 | 9.83 | 35 | 3.89 |
| 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る) | 152 | 0.32 | 3 | 0.30 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く) | 26 | 0.05 | - | - |
| 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を 原因とした場合を除く) | 409 | 0.85 | 8 | 0.80 |
| ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 1,011 | 2.11 | 5 | 0.56 |
| マイコプラズマ肺炎 | 1,074 | 2.24 | 2 | 0.20 |
| 無菌性髄膜炎 | 708 | 1.48 | 3 | 0.30 |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 15,523 | 32.34 | 161 | 17.89 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 97 | 0.20 | - | - |

*令和5年5月8日からの数値

(2024年3月集計)

4 前年（令和4年）との定点当たり報告数の比較

| 感染症 | 全 国 | | | 山梨県 | | | 山梨県/全国 | |
|---|----------------|----------------|---------|----------------|----------------|---------|----------------|----------------|
| | R4年 2022(A) | R5年 2023(B) | (B)/(A) | R4年 2022(C) | R5年 2023(D) | (D)/(C) | R4年 (C)/(A) | R5年 (D)/(B) |
| RSウイルス感染症 | 38.35 | 46.35 | 1.21 | 26.26 | 27.92 | 1.06 | 0.68 | 0.60 |
| 咽頭結膜熱 | 8.05 | 56.73 | 7.05 | 1.09 | 18.92 | 17.36 | 0.14 | 0.33 |
| A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎 | 16.84 | 84.77 | 5.03 | 1.70 | 15.71 | 9.24 | 0.10 | 0.19 |
| 感染性胃腸炎 | 195.34 | 243.89 | 1.25 | 156.17 | 256.58 | 1.64 | 0.80 | 1.05 |
| 水痘 | 3.99 | 5.18 | 1.30 | 2.78 | 2.58 | 0.93 | 0.70 | 0.50 |
| 手足口病 | 50.61 | 31.88 | 0.63 | 36.96 | 14.00 | 0.38 | 0.73 | 0.44 |
| 伝染性紅斑 | 0.60 | 0.71 | 1.18 | 0.39 | 0.29 | 0.74 | 0.65 | 0.41 |
| 突発性発しん | 14.98 | 13.00 | 0.87 | 10.52 | 14.00 | 1.33 | 0.70 | 1.08 |
| ヘルパンギーナ | 12.12 | 62.02 | 5.12 | 13.48 | 42.46 | 3.15 | 1.11 | 0.68 |
| 流行性耳下腺炎 | 1.57 | 2.19 | 1.39 | 0.78 | 1.75 | 2.24 | 0.50 | 0.80 |
| インフルエンザ | 5.20 | 468.63 | 90.12 | 4.55 | 380.39 | 83.60 | 0.88 | 0.81 |
| COVID-19* | | 278.14 | | | 325.71 | | | 1.17 |
| 急性出血性結膜炎 | 0.27 | 0.61 | 2.26 | - | 0.11 | - | - | 0.18 |
| 流行性角結膜炎 | 9.37 | 26.19 | 2.80 | 6.11 | 19.44 | 3.18 | 0.65 | 0.74 |
| 性器クラミジア感染症 | 30.66 | 31.78 | 1.04 | 21.67 | 18.22 | 0.84 | 0.71 | 0.57 |
| 性器ヘルペスウイルス 感染症 | 8.86 | 9.62 | 1.09 | 8.89 | 12.67 | 1.43 | 1.00 | 1.32 |
| 尖圭コンジローマ | 6.08 | 6.73 | 1.11 | 2.56 | 2.11 | 0.82 | 0.42 | 0.31 |
| 淋菌感染症 | 10.17 | 9.83 | 0.97 | 7.33 | 3.89 | 0.53 | 0.72 | 0.40 |
| 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る) | 0.21 | 0.32 | 1.52 | 0.10 | 0.30 | 3.00 | 0.48 | 0.94 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く) | 0.07 | 0.05 | 0.71 | - | - | - | - | - |
| 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球 菌を原因とした場合を除く) | 0.63 | 0.85 | 1.35 | 0.30 | 0.80 | 2.67 | 0.48 | 0.94 |
| ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 1.45 | 2.11 | 1.46 | 0.80 | 0.56 | 0.70 | 0.55 | 0.27 |
| マイコプラズマ肺炎 | 0.82 | 2.24 | 2.73 | 0.40 | 0.20 | 0.50 | 0.49 | 0.09 |
| 無菌性髄膜炎 | 0.90 | 1.48 | 1.64 | 0.60 | 0.30 | 0.50 | 0.67 | 0.20 |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 30.74 | 32.34 | 1.05 | 15.20 | 17.89 | 1.18 | 0.49 | 0.55 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 0.24 | 0.20 | 0.83 | - | - | - | - | - |

*令和5年5月8日からの数値

(2024年3月集計)

5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移（令和元年～令和5年）

| 感染症 | 全国 | | | | | 山梨県 | | | | |
|--|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | R1年 2019 | R2年 2020 | R3年 2021 | R4年 2022 | R5年 2022 | R1年 2019 | R2年 2020 | R3年 2021 | R4年 2022 | R5年 2022 |
| RSウイルス感染症 | 44.39 | 5.74 | 71.98 | 38.35 | 46.35 | 23.58 | 1.75 | 32.50 | 26.26 | 27.92 |
| 咽頭結膜熱 | 23.91 | 11.14 | 10.81 | 8.05 | 56.73 | 9.21 | 2.71 | 2.13 | 1.09 | 18.92 |
| A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎 | 112.51 | 63.52 | 29.84 | 16.84 | 84.77 | 56.33 | 34.83 | 12.04 | 1.70 | 15.71 |
| 感染性胃腸炎 | 256.39 | 133.26 | 161.67 | 195.34 | 243.89 | 186.13 | 101.88 | 124.17 | 156.17 | 256.58 |
| 水痘 | 18.00 | 10.08 | 5.64 | 3.99 | 5.18 | 16.46 | 6.79 | 3.00 | 2.78 | 2.58 |
| 手足口病 | 127.54 | 5.83 | 24.47 | 50.61 | 31.88 | 120.88 | 1.75 | 2.92 | 36.96 | 14.00 |
| 伝染性紅斑 | 34.29 | 5.79 | 0.70 | 0.60 | 0.71 | 36.54 | 3.58 | 0.88 | 0.39 | 0.29 |
| 突発性発しん | 20.44 | 20.79 | 19.08 | 14.98 | 13.00 | 12.33 | 12.00 | 10.92 | 10.52 | 14.00 |
| ヘルパンギーナ | 30.76 | 8.02 | 11.87 | 12.12 | 62.02 | 15.50 | 1.17 | 3.17 | 13.48 | 42.46 |
| 流行性耳下腺炎 | 4.80 | 2.56 | 2.32 | 1.57 | 2.19 | 4.21 | 1.79 | 2.08 | 0.78 | 1.75 |
| インフルエンザ | 379.77 | 114.25 | 0.22 | 5.20 | 468.63 | 340.98 | 105.59 | 0.02 | 4.55 | 380.39 |
| COVID-19* | | | | | 278.14 | | | | | 325.71 |
| 急性出血性結膜炎 | 0.49 | 0.27 | 0.20 | 0.27 | 0.61 | 0.56 | 0.11 | 0.11 | - | 0.11 |
| 流行性角結膜炎 | 33.25 | 13.09 | 9.85 | 9.37 | 26.19 | 43.56 | 19.11 | 6.33 | 6.11 | 19.44 |
| 性器クラミジア感染症 | 27.69 | 28.93 | 30.52 | 30.66 | 31.78 | 23.22 | 23.11 | 24.11 | 21.67 | 18.22 |
| 性器ヘルペスウイルス 感染症 | 9.58 | 9.17 | 9.14 | 8.86 | 9.62 | 11.44 | 12.44 | 9.89 | 8.89 | 12.67 |
| 尖圭コンジローマ | 6.37 | 5.79 | 5.70 | 6.08 | 6.73 | 2.00 | 1.00 | 2.00 | 2.56 | 2.11 |
| 淋菌感染症 | 8.35 | 8.64 | 10.58 | 10.17 | 9.83 | 5.00 | 4.56 | 4.56 | 7.33 | 3.89 |
| 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る) | 9.82 | 0.52 | 0.19 | 0.21 | 0.32 | 5.70 | - | 0.10 | 0.10 | 0.30 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く) | 0.20 | 0.12 | 0.05 | 0.07 | 0.05 | - | 0.10 | - | - | - |
| 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌 髄膜炎菌 肺炎 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症) | 0.95 | 0.85 | 0.77 | 0.63 | 0.85 | 0.80 | 0.70 | 0.20 | 0.30 | 0.80 |
| マイコプラズマ肺炎 | 3.65 | 1.84 | 1.77 | 1.45 | 2.11 | 0.50 | 0.60 | 0.20 | 0.80 | 0.56 |
| 無菌性髄膜炎 | 12.69 | 7.36 | 1.42 | 0.82 | 2.24 | 11.20 | 5.50 | 0.40 | 0.40 | 0.20 |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 1.70 | 0.95 | 0.96 | 0.90 | 1.48 | 1.30 | 0.60 | 0.60 | 0.60 | 0.30 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 33.84 | 31.19 | 30.30 | 30.74 | 32.34 | 16.80 | 16.20 | 18.60 | 15.20 | 17.89 |
| | 0.26 | 0.24 | 0.25 | 0.24 | 0.20 | 0.10 | 0.30 | 0.40 | - | - |

*令和5年5月8日からの数値

(2023年3月集計)

6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表

令和5年

| 週 | 調査週間 | 週 | 調査週間 | 週 | 調査週間 |
|----|-------------|----|-------------|----|---------------|
| 1 | 1/2 ~ 1/8 | 19 | 5/8 ~ 5/14 | 37 | 9/11 ~ 9/17 |
| 2 | 1/9 ~ 1/15 | 20 | 5/15 ~ 5/21 | 38 | 9/18 ~ 9/24 |
| 3 | 1/16 ~ 1/22 | 21 | 5/22 ~ 5/28 | 39 | 9/25 ~ 10/1 |
| 4 | 1/23 ~ 1/29 | 22 | 5/29 ~ 6/4 | 40 | 10/2 ~ 10/8 |
| 5 | 1/30 ~ 2/5 | 23 | 6/5 ~ 6/11 | 41 | 10/9 ~ 10/15 |
| 6 | 2/6 ~ 2/12 | 24 | 6/12 ~ 6/18 | 42 | 10/16 ~ 10/22 |
| 7 | 2/13 ~ 2/19 | 25 | 6/19 ~ 6/25 | 43 | 10/23 ~ 10/29 |
| 8 | 2/20 ~ 2/26 | 26 | 6/26 ~ 7/2 | 44 | 10/30 ~ 11/5 |
| 9 | 2/27 ~ 3/5 | 27 | 7/3 ~ 7/9 | 45 | 11/6 ~ 11/12 |
| 10 | 3/6 ~ 3/12 | 28 | 7/10 ~ 7/16 | 46 | 11/13 ~ 11/19 |
| 11 | 3/13 ~ 3/19 | 29 | 7/17 ~ 7/23 | 47 | 11/20 ~ 11/26 |
| 12 | 3/20 ~ 3/26 | 30 | 7/24 ~ 7/30 | 48 | 11/27 ~ 12/3 |
| 13 | 3/27 ~ 4/2 | 31 | 7/31 ~ 8/6 | 49 | 12/4 ~ 12/10 |
| 14 | 4/3 ~ 4/9 | 32 | 8/7 ~ 8/13 | 50 | 12/11 ~ 12/17 |
| 15 | 4/10 ~ 4/16 | 33 | 8/14 ~ 8/20 | 51 | 12/18 ~ 12/24 |
| 16 | 4/17 ~ 4/23 | 34 | 8/21 ~ 8/27 | 52 | 12/25 ~ 12/31 |
| 17 | 4/24 ~ 4/30 | 35 | 8/28 ~ 9/3 | | |
| 18 | 5/1 ~ 5/7 | 36 | 9/4 ~ 9/10 | | |

<やまなし感染症ポータルサイト>



やまなし感染症ポータルサイトでは、様々な感染症の県内発生や流行状況をはじめ、感染症の基礎知識や予防のための注意事項などを掲載しています。感染防止対策の情報源としてお役立てください。



(URL) https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho_portal/index.html

感染症発生動向調査事業報告書

—令和 5（2023）年版—

令和 6 年 12 月 発行

編集・発行 山梨県感染症情報センター
(山梨県感染症対策センター感染症対策グループ)

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内 1-6-1

電話 055-223-1321

https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho_portal/index.html